明治四十年七月二十日發行
（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百二十號

第三種郵便物認可 明治廿六年四月四日
毎月一回二十日發行
內務省許可 明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百拾貳號目次

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を研き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一生を送らんを冀ともに希はざるはあらざれども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして特に婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相携て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども其の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるものゝ如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ談り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一同集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の[illegible]話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす兹に本會旨趣の梗概を叙べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其賛成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治卅二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ延て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き[illegible]方に便宜支會を設く●第三條　本會員たらんと欲する婦人は何人にても入會するを得●第四條　入會の者は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員證を交付す（交付手續等は末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを囑みたる所は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡するものは親知々より[illegible]知せらるべし但所納の會費は返戻せず●第九條　[illegible]總裁一名を推戴し皇族の妃殿下に奉戴するものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事十名、評議員二十五名、評議員若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は毎年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し若くは幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は本會員以外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は[illegible]

[illegible]評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に集會を開くことあるべし●第十七條[illegible]

[illegible]但衣服は總て質素たるべきこと[illegible]

[illegible]規則の改正其[illegible]

[illegible]會計は一ヶ年毎[illegible]

[illegible]くは懲告することあるべし

事務所　東京市牛込區上宮比町八番地　私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

東伏見宮依仁親王妃

總裁 周子殿下

會長 侯爵夫人 鍋島榮子

副會長 瀬尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
仝 羽田三緒子
仝 岡田徳子
仝 高木かう子
仝 山本多磯子
仝 松平芳子
仝 三浦教子

評議員 石川貞子
仝 岩下ゆか子
仝 瀬田捨子
仝 長谷川仲子
仝 仁禮壽賀子
仝 四井升子
仝 穂積歌子
仝 土肥多鶴子
仝 緒方悦子
仝 岡山とし子
仝 小川孝子
仝 男爵夫人 加藤鈴子
仝 片山繁子
仝 吉武柳枝子
仝 丹波貞子
仝 高橋孝子
仝 田村きよ子
仝 男爵夫人 南部限子
仝 中瀬芳子

評議員 子爵夫人 山口貞子
仝 松井正子
仝 岸達子
仝 三宅藤子
仝 宮本榮子
仝 宮下吹子

●支會 千葉、新潟、山形、宇都宮、茨城、高崎、米澤

本會特別賛成員

（●は本會の爲め講演又は執筆せられし諸氏）

醫學博士 理學博士 ドクトル 醫學博士 ドクトル 醫學博士 理學博士 [illegible] [illegible] 醫學博士 醫學博士 醫學博士 貴族院議員 醫學博士 法學博士 東京 醫學博士 新潟 小兒科 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 步兵中佐 醫學博士 醫學博士

●入澤達吉君 ●飯島魁君 ●伊澤信平君 ●色川圀士君 ●伊東祐彦君 ●飯盛挺造君 ●伊藤隼三君 ●石川千代松君 ●岩井禎三君 ●石原久君 ●村瀬雄一君 ●石原喜久太郎君 濱尾新君 ●濱田玄達君 ●鳩山和夫君 萩原[illegible]四郎君 ●芳賀榮二郎君 ●長谷川泰君 ●長谷川一謹君 小原郁之君 ●岡田榮吉君 ●林春雄君 ●佐藤達次郎君 ●緒方正規君 ●堀内文次郎君 ●土肥慶藏君 ●岡田和一郎君

醫學博士 醫學士 醫學博士 一等藥劑官 醫學士 醫學士 男爵 醫學博士 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學士 醫學博士 ドクトル 醫學博士 法學博士 醫學博士 新潟 男爵 醫學士 醫學士 [illegible] 醫學士 藥學博士 醫學士 醫學士 醫學士 醫學士 二等軍醫正 醫學士 三等軍醫正 [illegible] 理學博士 醫學博士 男爵

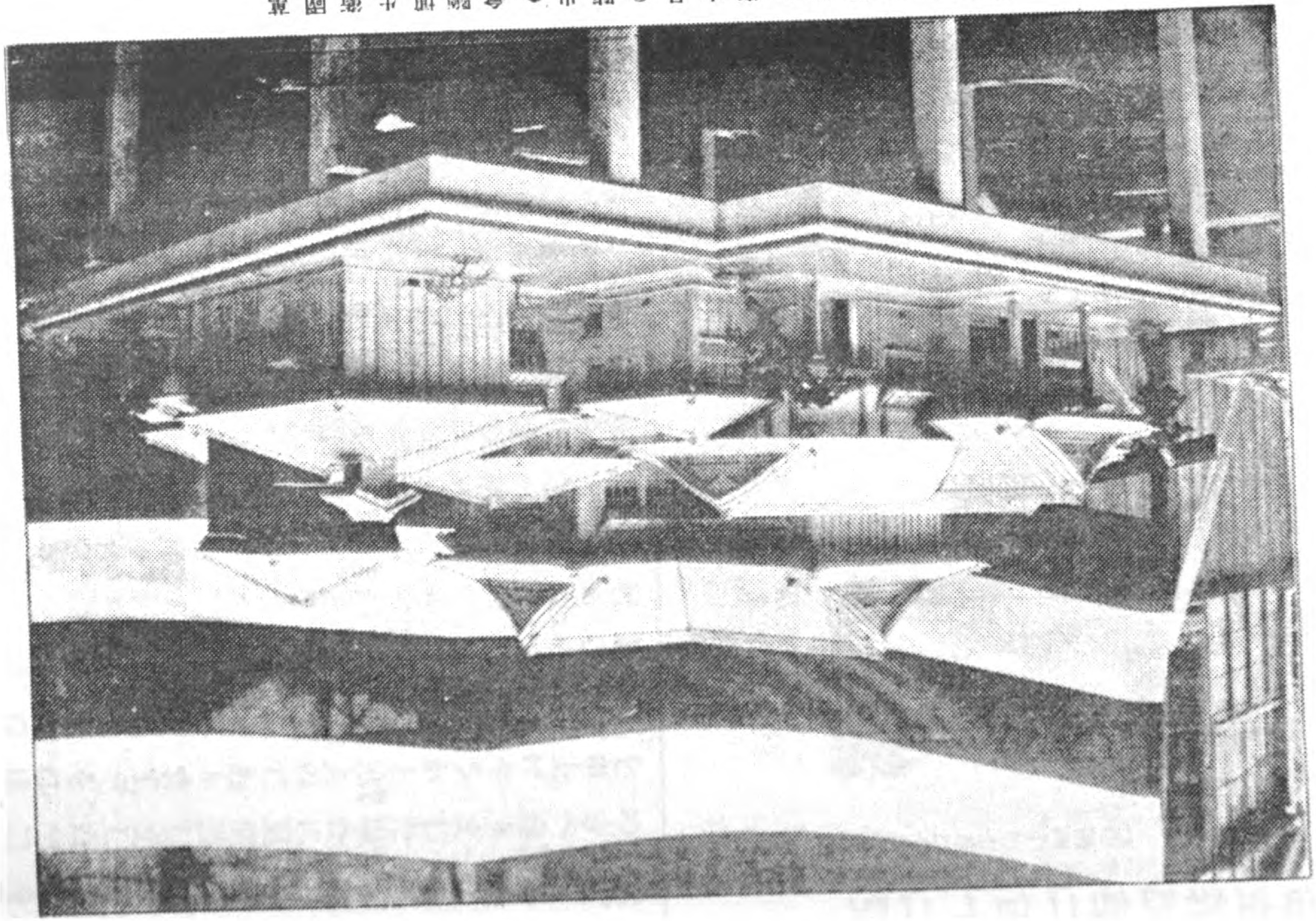
●大澤謙二君 大西芳治君 ●大澤岳太郎君 ●恩田重信君 若杉喜三郎君 ●渡邊房吉君 ●加藤弘之君 ●加藤照麿君 ●賀古鶴所君 ●河本重次郎君 ●片山國嘉君 ●川上雅策君 ●櫻川忽一郎君 ●金杉英五郎君 ●篠原光興君 ●唐澤光德君 ●河野衛君 ●高橋順太郎君 ●高山紀齋君 ●高木兼寛君 ●高木豊三君 ●田代義德君 ●田代玄助君 ●高崎正風君 ●竹中成憲君 ●高田耕安君 高橋萬三郎君 ●丹波敬三君 ●高橋貞顔君 ●田原良純君 ●田村光郎君 ●久保猪之吉君 ●米山彦郎君 ●星野稔光君 ●宮本叔君 ●横井忠國君 辻新次君 ●坪井正五郎君 ●長與稱吉君 南部甕男君

藥學博士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 海軍中佐 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學士 岡山 衛生試驗所技手 ドクトル ドクトル 東京盲啞學校長 廣島 醫學士 東京 内務省衛生局長 元東京帝國大學教授 醫學士 文部書記官 醫學士 醫學士 子爵 前軍醫總監 ドクトル ドクトル 高崎醫會長 婦人科 ドクトル 醫學博士 醫學士 醫學博士 ドクトル 醫學博士 醫學博士 醫學士

●長井長義君 ●遠山椿吉君 ●中濱東一郎君 ●黒山玄通君 ●栗本庸勝君 ●小笠原長生君 村松紙三君 ●殿川宗雄君 ●栗本東明君 ●山田鐵三君 ●山田弘倫君 ●山根正次君 ●山川春二君 ●丸山長四郎君 ●松山陽太郎君 ●小此木信六郎君 ●小西信八君 小泉賞君 ●古川榮君 布施正顕君 ●後藤新平君 ●エ、ベルツ君 ●甲野棐君 ●寺田勇吉君 寺川燮作君 ●秋元興朝君 ●足立寛君 ●新井吉芳君 ●富士川游君 土谷全次君 ●水原漸君 ●久保田誠際君 ●佐々木政吉君 ●淺山次君 ●朝倉文三君 ●朝山茂六君 菅又勝剛君 ●佐藤三吉君 ●櫻井郁二郎君

ドクトル 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學博士 ドクトル 醫學博士 醫學士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 小兒科專門 理學博士 醫學博士 醫學博士 醫學博士 伯爵 醫學士 醫學士 ドクトル ドクトル 醫學博士 醫學博士 醫學士 醫學士 醫學士 醫學博士 ミス ミス ミセス ドクトル 醫學士 醫學士 ドクトル ドクトル ドクトル 醫學士

●佐伯理一郎君 ●榊順次郎君 ●榊保三郎君 ●佐藤得齋君 ●櫻井錠次郎君 ●桐淵鏡次君 ●北村恪道君 ●北島多一君 ●北川乙二郎君 ●木下正中君 ●北島小太郎君 ●北里柴三郎君 ●三浦守治君 ●三浦謹之助君 ●宮本仲君 ●箕作佳吉君 ●三島通良君 ●三宅秀君 ●三輪信太郎君 土方久元君 島村俊一君 ●弘田長君 ●日高昂君 ●[illegible]田卓彦君 ●瀧川德君 ●木村德衛君 森林太郎君 ●龍川三男三君 ●波多野博君 ●吳秀三君 ●リッテル君 ●ヒユース君 ●コーツ君 ●菊池碩一君 ●橋本左武郎君 ●鳥居春洋君 ●土田卯三郎君 ●佐藤達雄君 ●内山信光君 ●濱崎寛制君



萬國衛生博覧會へ出陳の日本衛生家屋の模型圖

講演

歐米巡回見聞談

醫學博士　弘田長君

今日私しに此會に出まして何か談話をして呉れと云ふ御依賴でありましたが、だん〳〵此衞生會の雜誌を拜見致しますと云ふと、御演說の種類がこれまて澤山ございまして、殊に私の專門と致して居りまする子供の方のことに就ては、澤山の御演說がありましたので、最早材料が盡きてしまひまして、何にも申上げる材料がありませぬので、演題を撰みますには餘程困りました。デお聞きになりますのに何の價値もないことであるかも分りませぬが、今度歐米の方へ參りました場合に見聞致しました一二の事柄を申上げやうかと思ふのであります。それは此衞生會の方には直接に關係はないかも知れませぬが、歐羅巴の方で或は英米の方て、この婦人方が設立して居る種々の慈善會があります。その慈善會の中に最も私の專門に近い方面を、その序々に實見致しました。處が初めに私が想像致して居りましたよりも餘程それ等の會が進歩致して居りまして、ナカ〳〵實行が能く行はれて居りまするから、このことを少しお話致して御參考に供したいと思ひます。

私が日本を出ましたのは昨年四月の初めであります。丁度亞米利加に着きました時が、桑港地震の翌日、それで桑港へは上陸が出來ませぬので、御承知の如く新聞で御覧になりましたろうが、桑港全市の大火災でありまして到底上陸といふやうな場合てない。それで空しく船に殘つて居ります

と、その翌日他の方面へ送られましてオークランドに上陸致しました、その時分に着匆々に自分が甚だ驚いて且つ感じましたのは、オークランドに於る婦人の活動である、それはどういふやうな活動であるかと云ふとオークランドの停車場は殆ど火事場のやうな有様で、桑港から避難致して來る人が充滿致して居りまして、私どもなどは停車場の脇の往來に自分の鞄を置いてそれに腰を掛けて煙草を喫むで居るといふやうな狀態であつたのであります、其場合の夕方でありましたが身分のある婦人のやうに見受けましたが、大勢停車場に居られてそして胸に徽章をつけて奔走をして居るのを見受けましたが、初めは私は何にも意に留めないで居りました處が、暫く經ちますと私が腰を掛けて居りました處へ、紙に包んだものを持つて來て置きました、それから開いて見ると肉を麵麭の中に挾んだ食物である、それから私しは「ポッケット」より錢を出して其人に渡さうと致しました處が手を振つて隣の方へ非常に多忙しさうに參りました、少しも自分では解らない何の爲に然ういふ麵麭を貰つたのかと訊いて見ました處が、桑港から來る人は避難民であるか否やといふてとを尋ねる暇がないので、桑港から來る人には皆な然ういふ具合に食物を遣るといふとになつて居る、それで婦人の團體が時々出張して斯ういふやうに其麵麭を配付して居るのであると云ふことを聞きました。それで其話を聞きましてそれから停車場の中を見ました處が、諸所に然ういふやうに婦人が集まつて居つて、其集まつた處には蜜柑箱位の大きさの箱を山のやうに積んでそして其中に麵麭を入れてある、それが何箇所にも然う云ふやうな具合に積立てて、そしてそれを配付するやうになつて居るのであります、之は日本から私が行きまして一番驚いた初めてあります、若しも之が日本であつたならば、先第一に相談會を開いて、それから金を集めるとか何とか云ふことで、大變に時日が掛るであらうと想像致したのであります、流石は米國だけあつて、其翌

日に然ういふやうなことを既に實行して居るといふことで私は非常に感じました、之は日本へ歸つたならば婦人方にお目に掛つた時分に、其活動の速かなることを必ず御話申して御參考の料に供したいといふ考へてありましたが、幸ひ今日は斯う云ふ會に臨む機會を得ましたから、それで第一に自分が感じた活動を御話致します。

　それから今のお話は私が一番先に感じましたことて、それから段々他の都會へ參りました處が、孰れの都會へ參りましても、婦人の共同で設立致して居ります慈善會のない都會は私の參りました處ではないので、孰れの場所へ行つても是がある、第一數ふべきのは棄兒を取扱ふ會、それから第二は病氣に罹つて居る貧民の小兒の治療をしてやると云ふ施療病院であります、棄兒を取扱ふこと、或は孤兒を拾つてそして養育してやると云ふ會、又病氣に罹つて居る即ち病人を救つてやる會、それは孰れの都會に行きましても、それのない都會はありませぬ、其內に此婦人の團體のみの力でやつて居る會もあります、或は婦人の團體の設立を其市が補助を致して居ります、其やうな會と二通りあるのであります、それから孰れの處にも參りましたが、就中盛である自分て感じましたのは、米國が一番盛であるやうに感じました、どうしても富の程度が高いものでありますから、其活動は非常に盛でありまして、中々日本で想像致して居るやうな程度ではないのであります、非常な勢ひでやつて居る、病院なども大概は立派な煉瓦の病院であつて、小兒の病人を澤山入れることが出來るやうになつて居る、それで一年の費用がどうしても十萬圓內外の費用を使つてやつて居るといふのであります、が、さふ云ふ會は吾々に參考の資料といふ考で見聞致しましたけれども、規模が餘り大きい故に到底參考の料に取ることが出來ないのであります。

　其他にもう一つ子供に關する會が出來て居ります、是は創業以來まだ多くの年數を經て居らぬ最も

面白い考へて、一體貧民は夫婦共稼ぎでありまするから、婦人が自分の子供が發育するといふことは、餘程自分の仕事の上に困難でありまするから、それで多くの場合には牛乳で養育するといふやうになつて居ります、それて其場合に極く純良なる牛乳を得るといふことは、然う云ふ社會でありまするから六か敷のであります、價額も高くありますし、得るといふことが困難であります、それが爲に子供の死亡數が歐羅巴では非常に多くなつて居る、譬へば日本のやうな人乳で養ふて居ります處でありますと、百人の健康に産れた子供でありますと、全く其中に死亡する者が九名、多くて十名位の割になつて居りますが、之が歐羅巴てございますと云ふと、百名に對する三十名位の死亡數になつて居りまする甚だしい場合には百名について四十何名といふやうな數の處がありますが、兎に角日本の小兒より歐羅巴の小兒は其養育の爲に過失があつて、それで死亡する者が日本の倍以上の數になつて居ります、是が現今歐羅巴の婦人の非常に注目する處になつて、それで貧民の牛乳を要する者に出來得るだけ純良なる牛乳を與へやうと云ふ、即ち乳兒を保護すると云ふやうな慈善會が出來て居るのであります、丁度日本に致しますと乳兒保護會とも云ふやうな名義で慈善會が出來て居ります、是がだん〱一般から歡迎されまして、各都會に然う云ふものが出來て居るのであります、いまだ日本で斯う云ふ會の話は未だ出て居らぬのでありますけれども歐米では盛に實行して居るやうであります。

それから第四の慈善會は幼稚園て、御承知でもございませうが、歐羅巴の幼稚園は貧民の兒童を預かると云ふ目的で、それて幼稚園が初めて起つたのです下層社會では兩親が自分の仕事の爲に外出したり何かする後で、其兒童をどうするかと云ふ問題が起つて、其兒童の爲に母となる人が仕事をすることが出來ぬと云ふことがあるので然う云ふ問題の爲に幼稚園と云ふものが起つた、それで朝仕事に出掛ける

時に其子供を預けてさうして夕方自分の家へ歸る時分に子供を取つて歸る、斯う云ふ組織になつて居つて、それで終日預ける、所で年齢に應じて保護してやつて多少有益になる遊戯をさして居る。これ即ち幼稚園の濫觴である。今日でも幼稚園が出來て居りまして孰れの都會へ參りましても、その幼稚園は只今の精神でやつて居るやうな譯である、その點に於ては日本のとは正反對になつて居る、日本ならば中流以上の人が行くのであるが、歐米では貧民の子供を幼稚園で育つて居る斯う云ふやうな譯で、その幼稚園は種々其中にありますけれども、矢張先刻病院の時に申上げたやうに、市の補助を受けて居るものもありますし、或は全く慈善團體の獨力でやつて居るといふやうなことになつて居ります、私が見ました子供に關する慈善會は、斯ういつたやうな具合に四通りになつて居る、其他にもありませうが、大體は其樣になつて居る、其中の子供に牛乳を與へると云ふ方の慈善團體と、それから子供の病人を治療してやると云ふ方の慈善團體の方には、小兒の看護婦を養成して居ります、即ち小兒を取扱ふに熟練なる看護婦を養成して居る、是は慈善の傍でやつて居るが、又一つの事業になつて居る、デ大勢の看護婦が其處へ行つて乳呑兒を取扱つて居る、そしてだん〳〵實際に熟練するやうな仕方になつて居て、先づ慈善會の模樣は斯う云ふやうな具合になつて居ります。此間（眞寫圖指示）

倫敦の孤兒院を見ましたが、岡山孤兒院のやうな具合に孤兒を集めて、そして孤兒が成長すれば段々活版事業をやる者もあり、大工になる者もあり、裁縫もすると云ふやうな具合に、岡山孤兒院のやうなやり方であつて、是が非常に大きな事業であつて、一年に鳥渡二十萬圓餘使つて居るやうなことであります。

それから先刻申上げた四通りの婦人が開いて居る慈善會があるといふことを申上げましたが、其外にもう一つ一種の慈善會がある。それはどう云ふので

あるかといふと、湯治場ですナ、假令ば海水浴とか或は溫泉とかいふやうな湯治を致しまする場所へ大きな寄宿致しまする場所を造りまして、そして其處へ身體の薄弱なる子供でありまするか、或は病後の子供でありますか、斯う云ふやうな貧民の薄弱なる者を集めて、そして三週間なり四週間なり其處へ預かつて保養をさせる斯う云ふ一つの團體がある、それは今日其報告書を持つて來る積りでありましたがつい忘れました、是も大きな慈善會で日本で申しますなれば、箱根とか──輕井澤とか大磯といふやうな處に、大きな寄宿舍のやうなものを造つて、其處へ收容する、即ち只今申上げました狀態になつて居る兒童を預るのである、丁度時事新報が子供を連れて旅行をして居りますが、あれは唯ぐるりと廻つて歸る丈でありますが、私の申上げますのは病後未だ充分に恢復致して居りませぬ兒童又は薄弱な子供を多く預つて何週間か寄宿させて保養さするのであります、一寸彼れに似て居りますけれども彼れとは少し違つて居る、それは私が行つて見ましたのは二三箇所でありますが、なか〳〵大きな規模でありまして、私が參つた時には最早秋になつて居りましてもう學校が始まると云ふ時期が切迫致して居りましたから、子供が減じて居る場合であるにも拘はらず百五十名ばかりの兒童が集まつて、そして保護を受けて保養を致して居る處を見ました、それはなか〳〵規則が嚴重であつて行屆いて居ります、食堂、入浴場、遊戲室、音樂室、寢室等盡く備はり皆別々に出來て居りますし入浴するのにも風呂が二十ばかりもありまして、それを看護して居る人が兵隊を士官が連れて來るやうに此處に連れて來て、そして二十人なり三十人なり一度に入れて始末をするやうな仕組です。

それで斯う云ふやうな具合に慈善仕事がありまするが、今日は此婦人衛生會に一番關係の最も近い善良なる牛乳を與へると云ふ方の團體の牛乳をどう云ふ具合にやつて居るかと云ふ其取扱ひ振りを少し申上げます。

この慈善團體、即ち嬰兒幼兒の保護會、、、幼兒を保護すると云ふ會の牛乳の取扱ひ振りをお話しやうと思ふ、牛乳のことはこれまで度々婦人衛生會の例會で講演をせられた方もありますから、牛乳の取扱ひのことに就ては何方もよく御承知になつて居ることであらうと思ひます、て牛乳はどう云ふ牛乳が一番よいかと申しますれば、能く牛を取扱ふてそして極く營養の充分なる健康の牛、その牛から出た乳が一番好いのであります、是が先づ先決問題て、牛乳の善惡を論ずる時は先づその牛乳を出す處の牛には、どう云ふ物を喰はせて、そうしてその牛の營養が充分で極く健康であるや否やと云ふことが第一の條件、それが定らん以上は牛乳の善惡と云ふものは、到底論ずることが出來なからうと思ふのでありま す。歐羅巴邊て動物を取扱ふ處を見ますると、日本のとは全然うつて變つて居る、旣に遼東半島でも馬や牛を支那人は大變大切に取扱ふて居ると云ふことは、彼方へ行つた人は見て知つて居る、新聞でも見受けますが其通り歐羅巴でも、牛馬には限りませぬ、其他の動物でも非常によく取扱ふて居る、そこて動物は自身の財産になるのでありますから、其動物がよく健康を保つて美事な動物であれば、自分の財産がそれだけよくなるのでありますから、大變に其邊の處は注意がよく行屆いて居るやうに見受けます、現に汽車て見ますといふと、妙な物が作つてあつて私の曾て食べたことのないものが作つてありまするから何だと聞いて見まするど、あれは馬の食ふ食物であるとか、或は牛の食物であるとか云ふものを作る畑であるといふことてあつた、私はこんなものは日本では殆ど見たことがない、牛の畠、馬の畠と云ふものは見たことがない。日本ては何にも作れない處に草が生じて居る、それを切つて來て、牛に與へるとか、馬に與へるとか云ふことてありまして、特別に馬の食物とか牛の食物を、畠に作つてあると云ふことを聞いたことがありませぬ。亞米利加や歐羅巴には、目の續く限りそれが作つてあると云ふ處

があるのでございます。然う云ふやうな具合に能く作つてある。

それから牛の小屋の方に行つて見ましてもなかなか淸潔にして驚くばかりであります。それで日本ではどうかと云ふと、之は畜生に食はせるものである、之は畜生の生活して居る所だと云ふ考へからして、營養料の優劣小屋の淸潔といふ點に就ては餘り重きを措かないが、矢張牛馬であるからといつて腐つた物を食はせる不潔な所に居らすことは出來ないはずである。そこで然う云ふやうなやり方で、その動物が出す乳でありますから、どうしても食物の點、又衞生の點に於ても、注意をしなければならぬといふことが先決問題であると云ふことが御了解なされたでありましよふ。それが一つ。

それからもう一つは、この子供に飮ませるのには、牛乳を煮ないで生のまゝ飮ませると云ふことが、一番宜いことになつて居る。是は牛乳に變化を與へませぬからであります。子供の身體に對する利益から申しますと云ふと、煮ない生の方がよいのであります。それが今日は止むを得ず煮なければならぬと云ふことになつて居るのは、牛の乳を搾る時及び其後に種々の有害物が其中に這入る爲に、どうしてもそれだけのものを消毒して無害にしなければならぬと云ふ考へて止むを得ず煮るのであります。であるから煮ると云ふことは既に止むを得ずと云ふことになつて居るのでありますから、その止むを得んと云ふことをば度々繰返してやるのは、非常に牛乳を惡くするといふことにあたります。それで若し事が足りるならば煮ることは一遍で濟ませたい。その一遍も成るべくならば長く煮ないで濟ませたい。斯う云ふ希望が現今の吾醫學の希望である

それで一遍煮ました乳を蓄へますにも、通常の棚へても置くとか、或は不潔な場所に置くと云ふやうなことがありますと、矢張惡くなる傾向がありますから、それで一番宜い方法は矢張それを冷して置くといふことでありますから、假令煮た乳にしても冷

して置くといふことが必要であります。それで夏は氷を多く使ふと云ふ必要が起つて來る。で氷が安い國でありますと云ふと、非常に多く氷を使つて居れますが、日本では氷が割合に高價でありますからそれで氷を使ふことが廣く用ひられず此點に於ては小兒の衛生に甚だしい不利益だらうと思ひます。

それでだん／＼お話を致しました事をくりかへしますと第一に牛をよく養ふといふことゝ牛小屋の極めて清潔でなければならぬと云ふことを申しました。またそれから歐米に於ては其搾つて出た牛乳をば、どう云ふ處で取扱ふて居るかと云ふと非常に清潔な處で取扱つて居る。出來るだけ清潔な處で、掃除もよく行屆いて居るので、其中の空氣は如何にも清潔であらうと思ふ處で、其牛乳を取扱ふことになつて居ります。然う云ふやうな清潔な處で牛乳を取扱つて、それから其處で初めて消毒を致しまして、今度氷の中へ入れる。丁度日本の病院の手術をする室のやうな構造の清潔なる部屋である。此時(圖書指示)その室の床は日本で申しますれば、すつかり瀬戸物を敷き詰めたやうな具合になつて居つて、壁も矢張瀬戸物を使つてあつて、清潔に取扱ふことが出來るやうな方法になつて居ります。其處で牛乳を取扱ふて居るのであります。そして牛乳を取扱ふて居る人も矢張よく洗濯をした新しき着物を着て居つて、丁度外科の手術をする人が非常に清潔な着物を着て居るのと同じやうな具合である。

只今申しましたことをもう一遍かいつまむで申しますと、極く營養のよい牛で、極く清潔な處で其乳を搾つて、それから其の搾りたての乳を氷で冷して、そして目的の場所まで運搬するのである。それは大抵夜の中に運搬してしまひます。此やうに氷で冷して運搬致しますが、先方の場所に行つた處で其書物で御覧になるやうに清潔な場所で、一合入なら一合入り、五合入りなら五合入りに詰めて、其處で消毒を致すやうになつて居ります。それから消毒を致しますと云ふと、それを氷の箱に入れまして蓄へて置

く、斯う云ふやうな仕組になつて居る。

それから其氷の箱ですが、是はどんな箱でも同じやうなものであつて、此邊に書いてあるのは亞米利加でやつて居るのでありますが大抵然ういつたやうな箱を使つて居ります。それは食物や何かを入れる箱であります。大抵牛乳を蓄へて置く箱は然う云ふやうな具合になつて居ります。病院やなにかで使つて居る箱であると、日本の婦人の着物を入れる簞笥位の大きさで、そして兩脇が棚になつて居ります。其中に牛乳の壜を百本なら百本、二百本なら二百本入れて、そして蓋をするやうになつて居る。それで牛乳は何時でも氷で冷たくなつて蓄へてあるやうになつて居る。そして度々養ると云ふ必要がなくなつて居るのであります。それから今度其冷えた牛乳を宜い加減の溫度にして飲ませるのであります。

それから今度は其子供をどう云ふ具合にしてやるかと云ふと、其子供は此圖(略す)で御覧になると解りますが、成るべく子供を育ますには、大勢の子供を一室に入れないやうなやり方になつて居ります。是は私共の病院などでも、どうも免れぬことでありますが、一室に五人なり六人なり子供を入れて置きますと、甲の子供に少し下痢が起ると、ひよつとすると隣の子供も下痢を起すことがある。それは出來得るだけ嚴重にやつて居るけれども、同じ室に養育をして居ると時々間違ひがある。若し極端な間違ひを言へば襁褓を間違へると云ふやうなこともある。甲の子供の襁褓を乙の子供に使つてやると云ふことがある。さう云ふ場合に一方が下痢にでも罹つて居つたなら乙の子供に傳染するといふ憂がある。此點に就ては餘程注意をしなければならぬ。其故それ等の子供を養育する場合には、成るべく一人づゝにした方が宜いのであります。小さな交番のやうなものを幾つも造つて、そして一人づゝそれへ入れてあるのであります、其書物にあるのは其一つでありまして、是は矢張保護何の報告なのであります。それには小さなガラス箱がありまして寢臺の側に附いて居りま

すが、其箱には其子供に使ふ器具を入れて其子供だけに使つて、決して他の子供に流用しないやうにして、それで傳染を防ぐやうなことになつて居るのでございます。これが先づ以上やつて居る子供の取扱ひ方法の一般であります。

此處に私が特に此問題を衛生會にもつて參りましたのは、此會の目的として十分此方法を御實行になると云ふことは大變に必要であらうと思ひましたからです。其方法と云ふのは牛の乳を度々煮ると云ふことを、出來得るだけ省略をして、若し出來るならば一回で濟ませると云ふこと、成るべく其方法をお取りになることを……御實行にならんことを希望するのでありますが、それにはどうしても先刻申上げました氷を用うること、これがなければそれだけのことは行はれませぬから、それで私は東京の人工氷の會社へ此婦人衛生會なり、小兒科の醫者などが聯合致してそして交渉しまして成るたけ人工氷を安く販賣をさせ、又婦人會は成るべく其販路を擴めてやるやうな方針をとられて、少し義俠的に其補助をすれば向うにも利益が増す代りに、價も安くして普く氷を用うるやうになりましたならば、牛乳を餘り惡くせずに用うると云ふ目的が得られるであらうと思ひます。それのみならず此六月から九月までの間の氣候で、食物の腐敗を防ぐと云ふ場合にも、氷の箱に入れて食物を蓄へると云ふことは必要であらうと思ひますから、どうしても第一に必要を感じますのは氷でありますからして、それで私は衛生會の事業として、理窟ばかりを言ふのでなく實行的……然ういふやうなことに活動せられて充分實行の出來得るやうに御盡力になつたらよからうと考へます私自身も其人工氷の會社などへ自分の希望を述べて成るべく然う云ふやうにしたいと考へて居ります。

歐羅巴の方でありますと云ふと、病院のやうな處は固よりでありますが、少し料理や何か多くするやうな處では、大概三百六十日氷を絶やしたことはないのであります。それから亞米利加などへ參ります

と、大きな馬車に氷を積むで各自の家へ配達して居ります。それからニユーヨルクの内田領事の奥様とお話を致しましたが、内田領事の處でも一年中氷を絶やしたことはないと言つて居りました。食物の變化を防ぐにはそれが一番であるといつて居られました是は亞米利加のやうに總て物事を大袈裟にやると云ふ國であるから、それでやるのかと言へば決してさうでない。矢張歐羅巴大陸でもそれをやつて居る。日本より涼しい國でありながらそれをやつて居るのであります。此氷を使ふと云ふことは贅澤のやうでありますけれども衛生上から言ひますと最も必要であつて、就中牛乳を取扱ふ上に於ては殊に必要であつて決して贅澤ではない之は婦人衛生會で大に唱道すべき事であろふと思ひます

牛乳を消毒するのは日本のやり方と同じであつて矢張沸騰させてそして密閉して置く其他の方法も日本で今日やつて居る方法と少しも違つては居らない。唯だ煮てから後のやり方が違つて居るだけであります。それはどうしても今日の文明の程度ではそれだけはやらなければ、餘程遲れた狀態であらうと考へます。詰らぬことでありますが大體見聞をして、自分の感じただけのことを申上げました。若し之が御參考の萬一となりますれば私の光榮であります。

（終）

叢談

麻疹の話

醫學士　河野衛君

麻疹は俗にハシカと謂つて隨分古くから流行して居た病氣でありまして我が欽明天皇敏達天皇の朝に麻疹の流行があつたであろうといふ歷史家の說があるそうですけれ共正しい事は能く分らない、それから

天平九年に流行したといふ事があり、平安朝時代長德四年の書を見ると痲疹らしいもの丶流行した樣子が書いてある本があるそうです。

ハシカといふ名稱は鎌倉時代から始まつたのでハシカといふのは喉に芒が立ちたるが如くにイライラとして苛酷な感があるといふ所から來たのであるそうであります、室町時代てはイナスリと言ふて居たのて痲疹といふ呼稱は近世になつてからの事てあるのてあります、

痲疹は主に小兒を侵す傳染病てあつて二歳から六歳の間の小供がよく罹る、時季は春と夏とそれから秋に最も多く流行する。

それて何人も痲疹は小供に來る病氣てあるといふ事は能く知つて居りますけれ共大人も稀てはありますが本病に襲はる丶事があります、それから一歳未滿の小供は本病に侵される事が尠いとの事になつて居ります、モーゼルといふ人は六十八になつたお婆さんがハシカに罹つたのを見たといひホイブネル博士は八十歳の老爺さんが同じくハシカに侵された事もあると言つて居ります我國に於ても大人が痲疹に罹つたのをチョイ〳〵聞く事があります、人間がハシカに襲はれる素質を以て居る事は隨分著明なもので誰ても大抵はやられます、母の胎内に居る間でも血行に依つて痲疹の毒が來てハシカに罹る事があります。

痲疹に一と度罹つて治つた後は大抵二度とかゝる事は無いけれども極く稀には二度罹るといふ事もあります。

痲疹の病毒はどんなものであるかはまだ分りませぬ今日よく言ふ例の黴菌てあるかどうか分らないが兎に角此痲疹の病毒といふものは人間の體に附いて居る間は毒力を持つて居るものてありますけれ共人身以外ては案外早く死滅して了ふものてあるらしいといふ事てあります。

痲疹といふ病は一つの傳染する病氣てあつて中々よく傳染するものてありますそれなら

如何にして傳染する乎

といふ事をお話しましよう第一には直接に病人に觸れると忽ちに感染ます其次には空氣に依つても傳播しますそれ故患者の附近に居ると同しくハシカにかかりますそれから第三には患者の鼻汁や咳嗽の爲めに出る粘液或は涙血液などいふものにも病毒を含んで居りますから是等のものに依つても感染します或は患者の觸れた器物からも感染しまするし又中間の人即ち患者に觸れた人に他の小供が觸れると此中間の人からも病毒を感受します、それから痲疹の治りかけの時に皮膚の上皮がむけますが此の剝けた糠樣の垢からも感染します病毒を含有して居る空氣塵埃水滴のやうなものは傳染を幇助するに與つて力あるものでありますけれ共人體以外の物に附着して居る病毒は存外早く死滅するものでありますからしてソウ遠方の方迄も傳染の力を以て居るものではありませぬ、それでありますからどうしても痲疹の流行する時には人家の密接して居ない田舍よりも都會の方が遙に傳播が迅速であります、田舍では流行時でも其傳播は都會程に迅速でありませぬ、是から

痲疹とは如何なる病

であるかを申し述べましよう、痲疹の病毒に感染してから眞の痲疹を發する迄には一定の時日がありまして此れを潜伏期と申します通常九日から十日としてありますそれを過ぎると始めて先づ鼻汁が出て來て或はクシヤミをしたり鼻が痒い事がありますそれから眼が赤くなつて來まして矢張り痒い涙が出たりマボシクなつたりして眼瞼が腫れて赤くなつて來ます、朝起きて見るとメヤニが出て居りまして眼を開くと痛みを覺える痒くなるですそれから咽喉も赤くなつて來て進んで氣管の方も侵されますから咳嗽を發して來ます、咽喉がヒドク侵されます咳嗽の趣を變じて大變に呼吸が苦しくなつて來ます凡て此のやうな症狀は醫師の言葉でいふと粘膜の加多兒といふのでありまして鼻なり眼なり氣管なりには粘膜といふものがあつて是れが刺戟の狀態にあるので赤

くなつて腫れて分泌物が多うなつて來るのですそれ故にメヤニが出たり鼻汁が出たり咳嗽をしたりするのであります此時分には小兒は大變氣分が惡しくなりますから食事も進まぬし活潑に遊戯する事も好まなくなりますその上に熱が出て來ますから益々不氣嫌になるのであります斯樣な狀況の下にある事三四日を經過すると今度は急に熱が四十度位に上りまして皮膚一面に赤い出物が來ます即ち之を

發疹期

と申します、發疹期に入りまするど全身一面に赤い細い出物が顯はれて來ます、それは先づ頭部顏面に一杯出て次に頸胸腹等順次に全身に擴がつて行きまして通常二十四時間で全身に赤い細かい發疹が行き渉りまして少しく隆くなつて居ります、其細い出物が多數集合して來ますと一面に赤くなつたやうに見えますけれ共ヨク見ると小さな皮膚の發疹である事が分ります、發疹期には熱が四十度位に上りて居つて其發疹の去らぬ間は依然として高熱で止まつて居ります此間は前に申しました粘膜の加多兒は一番烈しい期間でありますから依然として咳嗽が續いて居ます、それから咽喉に瘙痒を覺えたり眠くなつたり或は頭痛がしたりボンヤリとして時としては譫語を發し痙攣を起す事もあります又關節や腰の邊に痛みを覺える事もあります食慾も進まず非常に渴を訴へて來ます熱は最高四十度から四十度五分位であります此發疹期は四五日續いて居りまして此間に熱も下つて次第に發疹が消えうせて其跡に褐色の斑點を殘しまして次第に此斑點もとれて了ひます、既に熱が下つて發疹が次第に消失するやうになつて來ますと氣分も餘程良くなつて來まして恢復期に向ふのであります、發疹の無くなつた跡からは上皮が剝けて糠のやうになつてはげるのであります時としては全く上皮の剝け取れない事もあります、それから皮膚の褐色斑點は十四日間位も殘つて居る事がありますそれて麻疹は始めから終りまでは大約三週半位掛ります。

麻疹は大抵上に申し述べたやうな症狀を呈するものでありますけれ共往々他の病を引き起す事がありまして例へば肺炎結核耳病眼病等を伴ふて來る事がありますから注意しなければなりませぬ。

麻疹の折には凡ての粘膜に加多兒を起して來ますから——腸にも粘膜といふものがありますからして此所へも病變を來しまして往々下痢嘔吐抔を來す事があります。

麻疹は他に合併症を起さぬ場合には危險のない病でありますけれ共中耳炎や肺炎抔を惹き起した場合には餘程注意しなければなりませぬ殊に弱い小兒であると一層危險であります。

豫防法

學校や幼稚園等多數の小供の集まる所では傳染の機會が多いから疑はしき小兒の登校を禁じなければなりませぬ、殊に身體の薄弱な小兒や結核の素因あるもの抔は本病に罹らぬやうに充分に注意し病兒に接せぬやう氣を附けなければなりませぬ。

既に本病に罹つた場合には小兒を隔離し靜かな清潔である室に移し床に就かしめ感冒に罹らせぬやう萬事醫師の指示する通りに從はなければなりませぬ病兒の室へは可成多人の出入をしないやうに勉め消毒をする事を怠つてはなりませぬ。

食事は可成消化のし易い刺激しない品を撰み牛乳ソップ重湯のやうなものを與へ色々な品物を妄に與へてはなりませぬ殊に腸の方に病氣を起させないやう注意するのが大切であります。

皮膚の發疹が全く取れて熱が去つてスッカリ其跡が無くなつた後でなくては外に出してはなりませぬ、殊に回復期に於きましては呼吸器の病に罹り易くなつて居りまして種々な病を起し易いものでありますから殊に注意を要するのであります、以上麻疹に就いて極く大略の所を少しく申し述べたに過ぎませぬ要するに麻疹といふ病は昔からあつた病であつて何人も大抵は之に罹る極めて多い小兒病であつて能く傳染するものであり且つ本病ばかりて濟めは宜しい

が往々其經過中種々なる他の病氣が加はつて來て危險な事があるから決して侮らずに充分注意をしなければならぬのであります。

血族結婚

醫學士　J・H・君

血族結婚と云ひますのは、讀て字の如く、血縁の相近きもの丶婚姻を指すので、狹義に解釋せば親子、兄弟姉妹、伯叔父母と甥姪或は從兄弟姉妹等の間に行はる丶もの丶謂てありますが、現今學者殊に醫學者が之に對して如何なる意見を持ッて居るか、玆に其大體を紹介しよふと思ひます、

人が生を稟けたからには、各々社會に對するの責任を負ふべきは勿論であります、然し吾々が日々取る所の職務を遂行したのみては、未だ全く責を免れたとは云ひませむ、吾々が健康なる身體を以て、社會の爲めに活動し得らる丶は、決して偶然ではなく、皆吾々の祖先が此强健なる精神と身體を吾人々に附與したのに外ありませむ、故に吾々にも當然健康なる身體を子孫に讓り渡すべき一大任務を有して居ります、扨如何にせば此目的を達すべきか、實に重大なる問題てありまして、子を持つと持たざるとに論なく、誰しも一度びは之が爲めに惱まさる丶期に遭遇致します、其れ故近來此等の事に關する記事は至る處に散見しますが、之れ世人が自己の責任を自覺するに至つた現象であります、

(一)　古來人は如何に近親結婚を見しか

生物創生以來、結婚(動植物にては斯く云はざるも)なるものは、必然現はれし事柄てありました故、人の之に注意を拂つたのは當然てありますが、稍人智の進むに從ひ、最近親間の結婚を罪惡として擯斥するの風を生じました、其何時の頃よりかは玆に精確に述べ兼ねますが、謨草小言と云ふ本には「同姓不娶」と云ふ事が見え、又松屋筆記にも「同姓婚姻禁止之始」なる章があつて、北史三卷、太和七年十二

月之條詔曰、夏殷不レ嫌ニ一族之婚ニ、周世始絕ニ同姓之娶ニ斯皆教隨レ時設、政因レ事改者也、皇運初基、日不暇給古風遺撲、未レ遑ニ釐改ニ、自今嚴禁ニ絕之ニ、有ニ犯者ニ以ニ不道ニ論云々、とある、又西洋の諺の「近親相姦ヲ忌避スル丁ハ人間一般ノ特徵ナリ、此感覺ノ全ク缺乏スル場合ハ甚稀ニシテ之レ不規則ナル變態ナリト認メザルベカラズ」云々との記載より考へても、古くより近親結婚を嫌ふ傾きがあつたのは毫も疑なき處であります、然るに稍緣の遠き從兄弟姉妹間及び此れより遠き近親者間の婚姻は、之を忌まざるのみならず却て好て行ひ且行ひつゝあるのは一寸不思議に思はれます、而して之を可とするものは(一)種族の血統及び階級の重すべきを主張し(二)當事者互に熟知するの利を以てし(三)財産保持上より之を强行するのでありますが、之に反して忌避する者は(一)血族結婚は親族關係餘りに複雜を來し(二)或は愛情が餘り狹小なる範圍に偏集すとなし(三)血族結婚は早婚の弊に陷るとし(四)或は道德上の廉恥心を喪失せしむと云ひますが、此等の理由は何れも風俗習慣より見たものであります、然るに近世醫學の發達と共に、血族結婚は其子孫に惡結果を及ぼすことを唱ふるに至りました、尤も之を嫌ふ風の起りし根源は主として宗教上の理由と他種族との懇親を結ばしめむとの 政略上から、其緒を發したものであると云ふ人もあります、

(二) 法律は何故に近親結婚に關する規定を設けたるか

國々によりて多少相違はありますけれども、何れも最近親間の婚姻を禁じてあります、立法の精神は勿論子孫に及ぼす影響を參照したのは明かでありますが、主として國々の風俗習慣を基礎とし、人倫道德を保持するにあるので、其理由とする處は血緣相近き者の結婚は婚姻其物より云へば、人倫に反し社會の秩序を亂し、其結果は血緣の餘りに近き爲め、交際が或は嚴格に失し或は餘り狎昵に流れ、婚姻の目的なる共同 生活 の目的を全ふする事が出來ぬから

とされて居ります、即ち立出者は子孫に向ての影響は第二に置き、且未だ全く血族結婚の子孫に對する惡影響を認めては居らぬ樣であります、さて然らば醫學者は之を如何に考へますか、私の述べむとする處は實に此點に存します、

（三）　血族結婚に對する醫學者の意見は如何

金杉博士は先年法理學研究會にて、痛く血族結婚の弊を論じて法律は宜しく六等親内の婚姻を禁ずべしと絶叫せられ、近頃も亦同じ意見を或書籍に載せられましたが、外にも同意見の方々は澤山ございます、人類に限らず生物には遺傳なるものがあつて、世を經、時を過すに從て漸次に相應の變化をなしますが、親と子と全く別物となる事はありませむ、即ち子は親より殆ど總べてを繼承します、故に兩親或は一方に精神又は身體に缺點があれば、子は他の健康なる兩親の子に比して、何處にか劣る處あるは爭ふべからざる事實であります、尤も世人が信ずる如く、病其物を直に子に傳ふるものでなく、只親の罹つた病氣に罹り易い（無病の人の子に比し）體質を與ふるのであります、例之ば肺結核は親より子に直接遺傳するのではなく、只結核になり易い體質を與へ、次に親子同棲の結果子に傳染して結核を生ずるのであります、兎も角結果は同一であります、つまり「健康なる子は健康なる親より生ず」との結論に達します、而して自然近親者間の子は如何との問題が玆に起るのでありますが、人體は死物ではない、如かも微妙なる機能を有する無數の細胞の集團が、各特異作用を呈する一定の機官を構成し、此各器官が更に一定の秩序を以て一個の活物たる人間を形作くるでありますから、外觀無病の樣に見えましても精細に觀察すれば、何處かに多少の不足（比較的）は免れない、即ち缺點のない者はありませむ、且つ一血族共通の缺點も各家族にあるもので、所謂肺病血統、精神病血統など稱するものに當ります、よしや此樣な著名の疾病がないとしても、一血族は大抵共通缺點を持つものとしましたならば、一血族の夫婦より

生れたる子は、其體質に於て親よりも大なる同種類の缺點を承くるか、或は少くも其缺點が子に於て全く消滅する場合の多くなからふと云ふ事は考へらるるでしよふ、之に反し兩親が他の血族の者でありますれば(兩血族が同種の缺點を有せざるものとして)子の身體に於て、二種の異なる缺點は相殺し滅却し去らざる迄も、同一缺點を增大する事は考へられませむ、之は單に吾々の想像に止まりますが、次の統計は此想像を益々深からしむるのであります、

（イ）精神病及神經病は最も多く同血族に現はる

フォン、クラフトエービングと云ふ精神病大家の調査に由ると、近來我國に非常に增加しつゝある神經衰弱症には著るしき遺傳的關係を見るが、男女各二百五十名、同患者中、遺傳的素因を有する者、男百五十一名、女百六十七名、總計三百十八名即ち百人に對し六十三人强てあつて、次に偏頭痛と稱する病は最も多く同一疾病が一家族に現はるゝもので、ヨット、メビウス氏に由るに、百二十七名の患者中三十名は答へ不明、十名は全く同病者無しと明言せしが、殘りの八十七名は其同胞又は兩親に偏頭痛を憂ふる者ありと答へ、殊に著るしきは三十五歲の一患者に問ふたのに、七人の妹が皆同病を持つて居り、十八歲の或醫師の令嬢は、父と同胞五人は同じき病に苦しむと答へたと云ふ事です、又「ヒステリー」にてもブリクエット氏の精密なる統計は、三百五十一名の同患者の家族千百〇三人を調べたのに二百七十三名の精神病 或は神經病者を發見し、其他同樣なる結果を各神經病及精神病に就て各專門家が調査して居りますが、煩はしければ略します

其他結核、卒中等遺傳的素因の證明さるゝ場合多くありますが省きます

（ロ）血族結婚の子に聾啞多し

聾啞となる原因には種々あつて、生れ付きの者もあれば、生後病氣の爲めに不幸聾となり、啞となるものがあつて、一々區別すれば甚だ多樣でありますが、

兩親血族の關係から調査して見ますれば、明治三十一年一月以降昨年十二月に至る間に、東京盲啞學校に來りし聾啞の總數は百十五名で、男六十八名、女四十八名中兩親の血族結婚は二十七名（百人中二十三人と七分の割合）、此中尙精しく調べた所が、從兄弟夫妻が十四名、再從兄弟夫妻が十一名、遠緣者夫妻が二名となり、其他腦膜炎、外傷、兩親の梅毒、妊娠中母の疾病、心痛等に原因するのでありました、又同校にて三百二十七名の聾啞を調査したるに、中生れながらにして聾啞なりし者百二十九名で、兩親の血族結婚は三十九名、即ち百人中二十八名の割合で、前述のものと殆ど同一であります、外國に於ても同樣の報告があつて、ボーヂン氏は血族結婚の弊として不妊症、神經虛弱、瘰癧、結核、畸形、兎唇、色素性網膜炎、聾啞等を擧げ、殊に聾啞を以て最も甚だしきものとなし、且血族近ければ近い程愈々其數を增加すると云つて居ります、氏は血族結婚の間の子は他族間の子に比し、聾啞となる事凡二倍乃至四倍に達すと唱へ、又マェイルと云ふ人は猶太人は他種族との關係上血族結婚を行ふが、蘭國にては猶太人は一万人中男三、五八、女三、一四、全獨逸にて獨逸人一万人中聾啞は男一〇、三七、女八、七九、猶太人は同じく一万人中男二〇、二四、女一五、七三の割合であると云ひます、此等の數を見れば、血族結婚は聾啞に最大關係を有する事がわかります、然し之れに反對する學者もないではありませぬが、一般には此等の報告は大體是認されて居ります、

さてこれらの事柄は結果を以て論じたものでありますが、只これのみでは確固不拔の根據とはならぬ必ず血緣近き者を撰び、次に其生れた子に就て周到なる研究を要します、然し貴重なる人類を醫學者が自由に研究材料とする譯に參らぬ故、之を動物又は植物に施した者もあります、

（四）　動物界に於ける同種族內播殖は如何

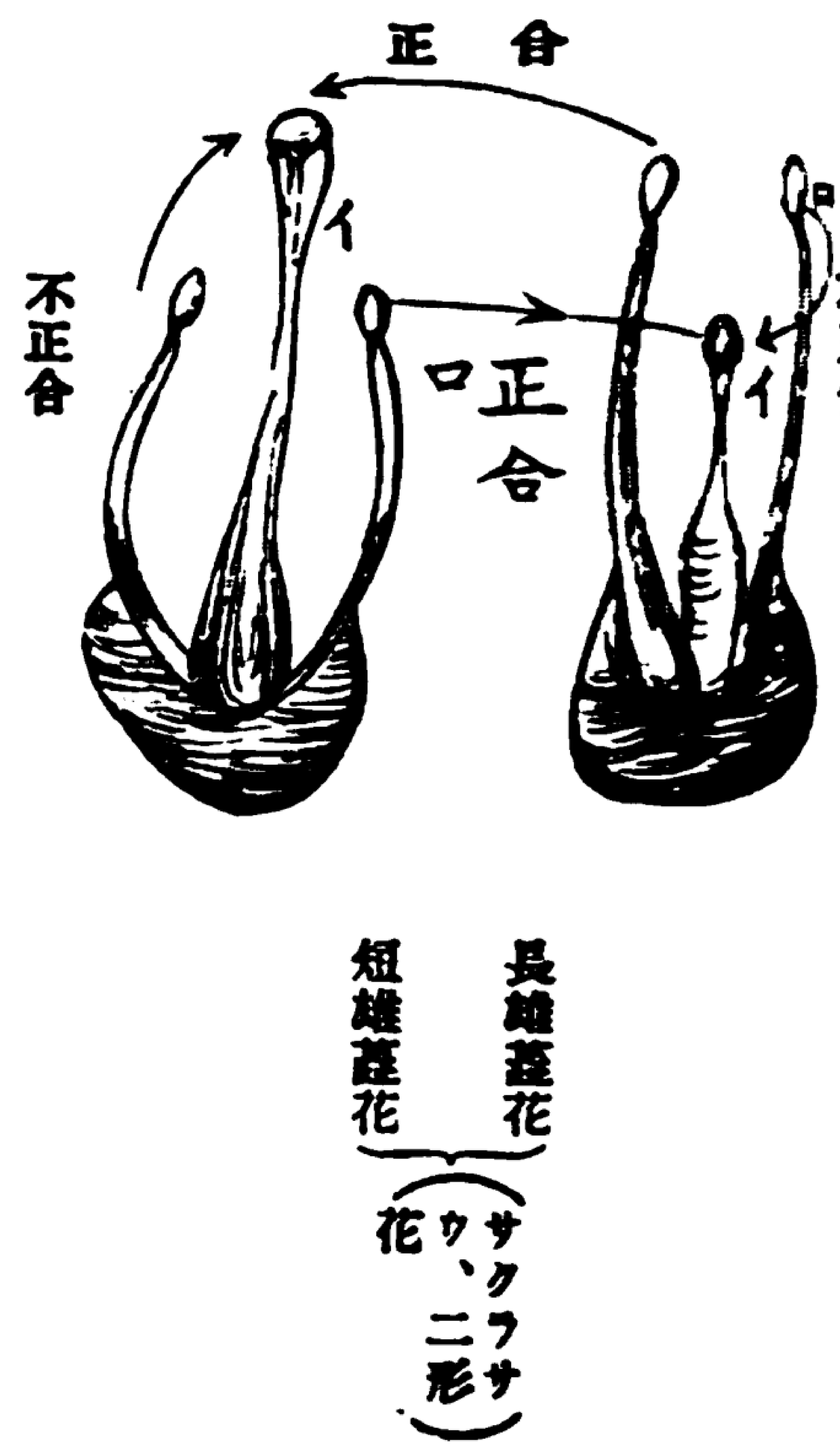
動物界にては親子兄弟の差別がない樣であり、且つ

毫も害毒が現はれぬかの如く見えますが、學者の研究は全く無害とは致しませぬ、ダーウヰンは諸種の動物を繁殖せし者は同種内生殖を以て甚た有害なりとの結論に達せりと云ひ、サー、ジェー、セブライは同種内繁殖を繼續せしむるときは全く生殖力を失ふに至ると云ひ、犬、水鳥、鳩を絶えず同種内に生殖せしめたるに、犬は強き獵犬が弱き「チン」となり、水鳥は脚長く體小となり卵を生まざるに至つたそうです、又クランベの實驗には血族の間に生れた褐色の鼠は百五十三疋中三十九即ち百に對し二十五強が産後直に死亡し、然らざる親の間に生れた者は二百九十九疋中二十八即ち百に對し八疋が死し、又動物の體は他者の間の子より遙かに小にして生殖力は減少せりと云ひますが、フート氏は反對説を述べ又他の學者は斯かる場合には撰擇を嚴にし、弱き者、生殖力の乏しき者を除かば、同種内生殖の惡結果を長く生ぜしめざるを得るを疑はずと云ひ、或は畜産家が同種動物結合に由て良種の者を得らるゝと稱するのは、只毛色の美や、體の肥滿など高價に賣るに適當するに止まつて、動物自己の價値には漸次害を及ぼすものであると之を駁する者もあります、つまり動物試驗にても未確定なる害毒を必ずしも現はすとの結論を得ない樣でありますが、少くも同種族内に缺くる點があれば、子孫に大害を殘すことは何人も贊成する所であります、又肝臓ヂストマと稱する寄生蟲の如き、雌雄同體即ち一個體に兩方の生殖器を備へて居るものは、他蟲の力を借る迄もなく自分のみで卵を産みそうなものですが、矢張り他蟲と相俟て生殖を行ふのは即ち天然が遠い者を撰ばしむるのではありますまいか、

（五）植物界に於ても他花受精は正合なり

植物生殖には自花受精と他花受精とあるが、多くは後者に屬します、「サクラソウ」の花は二形花と云つて、長き雄蕋と短き雄蕋花の二種あるが、其受精作用は

次の圖の如くであります、



「イ」は雌蕋、「ロ」は雄蕋
矢の方向は花粉傳搬（生殖を示す）

即ち自己の花粉を他花に與へ、他花の花粉を己れの雌蕋に受けて受胎するのが正合であります、ダーウイン氏は正合に由て生じた種子は肥大にして數も多く、不正合の者は種子を生ずるけれども、瘠小にして數が少く、或は全く種子を生ぜざる事もありと云つて居ます、且つ氏は同種にても充分なる且つ良き土地に置くときは或は全く墜落せざるも他と競爭の地に置くときは屢々枯死し或は萎縮すると云ひます、

（六）結論

以上述べ來りし所を綜合しますれば、下等なる生物たる動植物に於ても、已に同體或は同種族間の生殖は避る傾向が見え、又其結果も多くの學者は他の者に比し劣れりとなし且つ少くも一種族に或共通缺點があれば、同種間生殖は子孫に大害を與へるものであり、人類に於ても同族結婚に大なる障害を起すことは、多數の學者の承認する處でありますれば、家系に著名の缺點あらざる迄も務めて之を避くるの安全なるに如きませむ、只大體を述べて皆さんの御參考に致します、

（完）

活ける家（續）

醫學士　渡邊房吉

四）活ける家の外壁

筋肉は活ける家の内壁で、身體の大體の輪廓を形ち

造るものであるが、其外觀を立派にし兼ねて住まいよい様にするためには、更に

皮膚

と云ふ外壁で宛然も衣の様に圍まれて居ります。然し皮膚は或意味に於て全く衣であつて、動物の始めは皮膚内外に衣服を有たず、古代未開の人民も大方は裸體であつて寒暑共に之を凌いだものであります。今日でも尚ほ多くの暖國の人には皮膚を衣服に代用して裸體生活を送り、只腰の周圍を蔽ふのみに過ぎないものがあります、斯る裸體國民の皮膚は直接に日光に浴び、たへず清新純潔なる空氣に曝らされて居るもの故、極めて美はしく且つ極めて健康なものであります。

たとへば吾々の顏の皮は特別製千枚張りと云ふては無いが、他の身體の部分の皮よりも丈夫で、日と無く夜と無く絶へず寒暑に曝らされて居るに拘はらず格別なる害を蒙ることの無いのは、他に衣服より掩はるゝことの無いためではありませぬか夏の三月を海濱で暮し、跣足になつて白砂青松の間を踏み歩くに拘はらず、足の皮の脱けてなくなる様なことなく却つて冬から春にかけて足袋靴下と云ふ具足で堅めて居つた頃よりも、更に〳〵厚く強くなると云ふのは、誠に吾々の皮膚が活きた衣、活きた外壁であるからであります。

天下廣しと雖も、古今長しと雖も、如何なる裁縫師か吾々の皮膚の様な緊り弛みの無い具合ひの良い衣服を仕立てることが出來よう。昔しバビロンの塔を建てた大工でも、日光廟に天工を欺いた技術家でもドウして我々の皮膚の様な精緻巧妙を極めた外壁を造り出すことが出來やう。

壁は落ち、衣は破れる、然しながら皮膚は絶へず生育して破るれば直ちに補はれ、使用るれば益々厚く強くなるものであります。吾々の生命が五十年でも百年でも、凡そ活きとし活ける間は生れた時と同じ皮膚の衣を纒ひ、其色澤と云ひ外觀と云ひ差して變

りの無いものであります。然かし或る點一方から見れば同じ皮膚の様ではあるが、他方から考ふれば様々の衣服て、絶へず改まつた新衣を纏ふて居るのであります。即ち上層の皮膚は常に垢となつて取れ去り、下層よりたへず之が補はれて居るもので試に皮膚の小片を切つて顯微鏡に照らして見れば、既に皮膚としての用を全うして最早や垢となるべき無數の乾燥した死せる細胞を見るものであります。故に毎日沐浴して斯る皮膚を去らなければ、全身に垢を生じて單に不潔い計りて無く衛生上の大害となるのであります。

皮膚の厚さ

皮膚は通常一分位で、手掌と足蹠とはやゝ厚い

皮膚は上下の二層

から出來て居つて、上層は上皮と云ひ極めて薄く、容易に之を下層から剝すことが出來ます。彼の倒れて膝や手を「擦りむく」と云ふのは上皮が下層から剝離たので皮膚全體が破れたのではありません。上皮の役目は其下層を保護するのでありますから、餘の様な物質から出來て居る扁平い細胞が幾層にも重り合つて居ります。此上皮を取り去れば其下に紅い色の下層がある、之を

眞皮

と云ひ、眞皮を顯微鏡て見れば多數の小なる丘隆が山脈の様に波形を畫いて居るのを見ます。此小丘を乳嘴と云ひ、手の掌を注視して數多の溝を境ひする小高き線條のあるのは、丁度乳嘴に一致する所であります。血管や神經はみんな乳嘴の部分に至つて居るもので此處が、皮膚の感覺を觸知する所であります。

上皮には血管は無いが色素細胞があつて、皮膚に様々の色を與へるものであります。黑人種では此色素が眞ッ黑で、白人種では之が白いのであります。若し黑人種から此色素を取り去れば皮膚の色は全く白人種と違はぬ様になります。眞皮の色は人種の異同によりて異るものではありません

故に人類の美と云ひ黒白と云ふもホンの上皮だけのことで、決して夫れ以上ではありません眞皮の下には脂肪があり、脂肪の中には栓抜きの樣に眞皮と上皮とを貫いて皮膚の表面に開く螺旋狀の微細い管があります。此管が脂肪の中で幾重にも卷かつて居る部を**汗腺**と云ひ、身體で不用になつた惡い液を體外に排泄し、同時に體内の熱を冷ます所の役目をなすものであります。此液を**汗**と云ひ、上記の細い管を傳はつて皮膚の表面に開いて居ります。旋卷てゐる汗腺の細い管を集めて眞直ぐに引き伸ばせば、其長さは十哩に餘る程で、汗腺の數は全體では二百五十万以上に達し、身體の場所により多い所と少い所とあるが、一寸四方の面積に頰では五百餘り、額では一千二百以上、手掌では二万五千以上を算するとの事であります。此無數の汗腺から絶へず排泄される汗は、よしや目には見へないでも一晝夜の量を集めて測つて見れば、六七合から一升二三合に達し、激しき勞働或は運動をすれば最早や瓦斯の形でなく、玉の汗となつて流るゝ樣になります。

汗の中の固形成分は百分の五許りあつて、他の水分の樣に瓦斯となつて發散する事が出來ぬ故、おのづと皮膚の表面に殘留て汗の出口を塞ぐことになります。此の如くなれば汗の發散は妨げられ、從つて體内に停積して再び血液の中に戻り、遂に病氣を起す樣になります。故に之も皮膚を清潔にせねばならぬと云ふ有力なる理由であります。

昔し或國の人民が國の大祭典に當て、一人の小兒を連れ來り、其皮膚の全面に金箔を塗つて屋臺車の上に乘せ、ワイ〱と囃し立てた事がありましたが、可愛相に此小兒は金箔のために汗の出口を塞がれて

翌日になり終に死んで仕舞ひました。

風邪をひいて熱があれば汗の出口は塞つて、全身の具合ひが惡くなる。故に醫者は解熱劑を内服て汗をかかせ、汗と共に熱を去ろうとするのであります、寒暖計は暑さ寒さに反應して或は高く上り或は低く下りますが、皮膚の反應は更に之より鋭敏て、外界の溫度が下れば汗の出口は塞つて體溫を失はぬ樣にし、空氣の溫度が高ければ汗腺の口を開ひて熱を放散する樣になります。人體の溫度が夏冬共に三十七度て居ると云ふのは全く之がためてあります。要するに

皮膚の役目

は左の通りてあります。

(イ)身體を包んで之を保護します。
(ロ)身體の外觀を美しくするものであります。
(ハ)寒い日には身體を暖かにし、暑い時には之を冷やし、斯くして體溫を調節します。
(ニ)汗を出して身體に不用な毒を排泄します。
(ホ)汗の出口は一種の氣孔で、身體は之によりて呼吸します。
(ヘ)乳嘴に來て居る神經により寒いと暑いと、痛いと痒いと、疎いと滑かなると、其他凡ての感じとを知ることが出來ます。

次に吾々は何うしたらば吾々の皮膚を美しくする事が出來るかと云ふに、毎日風呂に浴して溢れ出る汗を流し、剝離れ去る上皮を取り、かくて皮膚をして清潔健康ならしむるのが最良策であります。然しながら

沐浴には一定の規則

があります。

(イ)食事後二時間を經なければ沐浴してはならぬ、沐浴すれば全身の血が皮膚の表面に來て、食物を消化する胃の血量が減ずるからであります。食後直ちに海水浴などをするのは殊に危險で、水で胃の腑を壓すれば食べた計りの食物は再び食道へ戻り時として戸惑して氣管に落ち、窒息して死に至る

ことがあります。

(ロ)浴後直ぐに食事をするのも惡ひ

殊に三伏の暑さの頃、蒸すが如き日中の苦熱を、漸くに凌ぎ終つて、ソヨ吹く夕暮れの涼風に湯上り姿を扇がせながら、食事するのは誰しも望む所てあるか、衛生上には浴後一時間以上を經て食事をするのが最も良い。

(ハ)健康のすぐれぬ弱き人は、浴後血液の循環が舊の通りに復つて、動悸や呼吸困難が消失る迄靜かに休んで居らねばならぬ、が、强壯活潑なる人なれば浴後運動するもサシテ差し支へはありません

(ニ)身體が極度に疲勞し、氣力も消費はたされた時に沐浴してはならぬ。沐浴が身體の爲めになる時は愉快な思ひと、暖かな感じとを伴ふものであるが、全身の疲れ果てた時には斯樣な感じの起らぬものてあります。

(ホ)湯の溫度は冷熱共に其適度を撰ぶべきで、吾々は除りに熱きに傾くの癖があります。熱い湯に浴した後に冷水を沐つて皮膚を収縮させるのは、風邪の豫防法てあります。

(ヘ)浴室は空氣の流通が良く、下水の排泄が良く、而して寒風の吹き入らぬのが必要てあります。

(ト)沐浴の時間は午前の十時乃至十一時頃が最良てありますが、非常に蒲柳の人は、就寢前に沐浴して一睡の中に一夜を過ごすも、心地よいものてあります。然しながらこれは理論上の事で、實際から云へば其職業の如何と其周圍の事情とにより、適宜の時に沐浴せねばならぬのも亦止むを得ぬことてあります。

(チ)浴後オレーフ油かココア酪などで全身を摩拭れば皮膚をして滑かて且つ柔軟にすることが出來ます浴後冷水摩擦をするのも皮膚を健康にし、風邪を防ぐ所以てあります。種々の都合上沐浴をし兼ねる時に乾燥した布片で强く摩擦するのも大に良し、之によりて上皮の垢を去り、汗の出口を開くことが出來ます。

多くの人の沐浴を見るに念を入れて洗ふ處は、第一に顔と頸、第二に手、第三に足、第四に胴と云ふ順であります。が、之れは寧ろ順序が顚倒してはゐまいかと思はれます。何故かと云ふに顔や手は毎日之れを洗ふもので、時としては一日中に幾度となく洗ふことがありますが、衣服から包まれた部分は空氣及び日光より遮ぎられ、汗や上皮は皮膚の上に集り、乾燥して汗の口を塞ぎ、不快なる惡臭を放ち、身體内部も亦不潔になり、果ては重い病の源となることがあるからであります。

湯から上つて清楚した清潔な着物を衣た時ほど心地よい愉快な事はありません、毎日沐浴すれば衣服の汚れることも少く、從て二六時中絶へず心地の良いものであります。然かし皮膚を清潔て健康にするには之を洗ふ計りで無く、又

清新なる食物と良好なる飲料とを攝り
新鮮なる野外の空氣を吸ひ
規則正しく運動すること

と等凡て皆緊要であります。

由來身體を健康にすべき事柄を爲すのを好むのは人類生來の性質であつて、從て夫れ〴〵の年齡に應じて健康を資益する所の食物、飲料、快樂、休養職業等を擇ぶのであります。例令ば頑是ない小兒を見るに食物としては極めて單純なものを好み、遊戯としては水泳及び魚鳥を捕ふる等を欲し、暗い一室に閉ぢ籠つて書籍を披げるよりは寧ろ野外に馳け廻はるのを好むものであります。吾等も沐浴して心地良いと云ふならば何を苦んで、皮膚を不潔にして自から不快に甘んずる愚人の眞似を致しませう。

神經衰弱の話（續）

東京醫科大學　A B 生君

第三　神經衰弱を起す原因

には種々ありますが、先づ之れを大別して

先天的の原因

後天的の原因

の二つとします。之れは兩者互に相關係して居るから、明かに區別し得べき性質のものではありませんが便利の爲に別つたのであります。先づ

先天的の原因

(一)身體虛弱なる人　生來虛弱なる人は常に引込み勝ちて且つ消極的になつて、物に感じ易く、微な事をも考へ込む樣になるから、自然と神經衰弱に移り行くのであります。學生等でも壯健な人は學校へ行ても好んで各種の運動をやるから、氣分は快活になつて益々壯健になり、つまらぬ事は氣にかけず、夜になれば晝運動して置たから床に入れば直に前後も知らず熟寢してしまふ。此樣な人は神經衰弱等は考へた事もなければ罹つた事もありますまい。然るに虛弱な人では學校へ行ても運動する元氣もなく蒼白い顏をして運動場の隅の方に引込んで居て、運動する人を下等なる者の樣に冷視し、さうかと云つてあまり勉强もせず、時には三文文學を弄んだり、齒の浮く樣な哲學論を口にしたり、年にも似ぬ戀愛を說いたり悲觀したり、厭世したり、閑居して不善を成したり、遂には怠惰になり、食慾缺乏、睡眠障害を起して神經衰弱となると云ふ經路であります。弱い人は必ず斯くなるとは限らぬが、此樣な事になり易いから注意せねばなりません。殊に心の定まらぬ中學生時代には父兄が充分の注意を拂はねばなりません。

(二)遺傳より來る神經衰弱　身體は極めて壯健であるのに、神經系統だけが先天的に弱い人がある。之れは多くは遺傳である。之れは祖父母に神經衰弱の人が有つたとか、精神病者が有つたとか糖尿病の人が有つたとか、母が「ヒステリー」で有たとか、父が飲酒家で有たとかと云ふ樣な人に遺傳的に來るのである。だから斯かる系統の人達は子女を敎育するに餘程注意せねばならぬ。元來神經の弱い子女に强て學問させたり、考へ事をさせる事は直に神經衰弱を製造する樣な物である。故に充分の手加減を要す

るのである。系統的に神經の弱いのは仕方がないとしても、自分が飲酒の爲に神經の弱い子を生むと云ふ事は實際子孫に對してすまぬ事である。自分の慾情を滿足さす爲に子孫が代々神經の弱い者となるかも知らぬ、たとへ又幸にして子孫に何事も遺傳しなかつたとしても、自分一人に取り老後種々の障害を來す事を思はねばならぬ。醫者の書物の各章に飲酒の害と云ふ事は面倒な程澤山記されてあるものであります。次に

○○○○○

後天性の原因　の種類は　甚多いが、つまりは其人の不攝生によりて來るものである。

(一)肉體或は精神を過度に用ゐる事　之れが　最多く　最重き原因をなして居る。殊に精神を過度に用ゐる者には來り易い、學生が試驗前に過度に勉强して起したり、相場師、銀行家、實業家等が、金錢上の事で非常に心配して起したり、親族の死の爲に起したり、看病人があまり心配して看病をして居た爲に病人が恢復すると共に自分が神經衰弱になる樣な例もある。肉體の運動の勞働より來るものは、精神上から來るのよりは少くないが隨分ある。時には百姓が神經衰弱に罹る事もある。併し是等も矢張り何か傍に精神上の仕事を持て居る者に多い樣である。だから肉體精神の兩方を過度に使ふ人には甚多い。印刷業に神經衰弱の多いのも此理である。戰爭中の軍人や、電話交換手や、電車の運轉手や等にも多い理である。而して一般に精神の疲勞から來る神經衰弱には精神上の徵候即ち不眠、短氣、倦惰、記憶缺乏の如き事が多く現はれ。肉體の疲勞より來る物は肉體上の症狀が多く現はれる。節々の痛や、しびれ、壓感等である。

(二)ある種類の傳染病の後　殊に「インフルエンザ」梅毒、腸チプス等の後によく來ます、疼痛や、壓感や、倦惰等が主なる症候であります、學生が修業中「インフルエンザ」や腸窒扶斯に罹つて學校が後れたからと云ふので十分身體の恢復せぬ間に勉强して、爲に頑强なる神經衰弱に罹つて已むを得ず飛てもな

い多くの日數を犠牲にする樣な例はよく見る處であります。

(三)外傷又は手術の後　落つる、倒れる、擲られる等の外傷をうけたり、又は何を外科的の手術を受けた後に起る事がある、之れは外傷性神經症と稱へて神經衰弱の外、時には「ヒステリー」や其他の神經症を起す事もある。

(四)飲酒喫煙によりて來る　「酒と煙草は養生に害あり」とは小學校の讀本にも書てある、此不養生の爲に神經衰弱を起した人も隨分ある。

(五)生殖器障害　生殖器の作用は男女とも精神作用と密接の關係を持て居るのであるから、生殖器に障害を來した事が原因となる事も隨分多い。

(六)淫行による　手淫、房事過多、其他不自然の淫行の爲に來す者は隨分多い、殊に未成年の青年男女の淫行は甚だしき害がある、中學校や女學校では十分の注意を要するのである。

(七)鼻の病氣　鼻の病氣の爲に鼻から息が通らなくなる、之は甚だ不愉快な物で之れが原因となりて頭痛や記憶力減退等を來し、神經衰弱に移行く事は往々ある、之れは多くは鼻を手術すれば全治するのであります。

(八)睡眠不足　之れも主要なる原因の一である、睡眠は毎日七時間以下では不足である、長く毎日少し宛不足して居る人には漸々と障害が起つて來る、一時に甚だしく不足した人は急に障害を來すのであります。殊に頭を使つて居る人等にはある夜寐眠を不足すると、直に其翌日は頭がきかぬから、已むを得ず晝寐をすると寐過して、爲に其夜ねむられない。之れが一回位ならば二三日にして恢復するが、其時又不足をすると云ふ風に重ねると遂に全く神經衰弱に陷て仕舞ふのであります、前に申した學生の試驗前の例や、看護人の例の如きも一は睡眠不足が其原因を成して居るのであります。

(九)不規則の生活　睡眠不足も不規則なる生活の一つてありますが、其他食事でも、仕事でも、娯樂で

も兎に角不規則に日を送る事は甚よくない、怠惰になつたり、胃腸の障害を起したり、不攝生をやつたりして間もなく神經衰弱を起すの原因となるのであります。

以上の諸原因によりて起る神經衰弱の豫後は如何かと申しますと、先天的のもの殊に遺傳によりて來るものは最も治り難い。次は後天性のものでも年少の時から起つたものは治り難く、病後や外傷の後のや又は精神上の刺戟によりて起るものは比較的良い樣であります。

第四　神經衰弱の豫防法

先天的の神經衰弱については、原因の條下に少し宛注意して置きましたが、後天性即ち不養生から來る神經衰弱は如何に豫防すればよいかと申しますと、

(一)生活を規則正しくする事　が第一であります、一日中になすべき事を略ぼ時間で定めて、それをきちん／＼と守つて無理な事をしたり、あまり惰けたりする樣な事をせぬ樣にしなければならぬ。殊に必要なのは睡眠時間を守る事である。前述の如く人は是非七時間以上は睡眠をとらねばならぬのであるから、其範圍內にて何時に寢て何時に起きるかを一定して置くがよい。而して成べくは夜は早く寢て朝早く起きる方がよい、朝寢をする事は斷じて不可である、晝寢は頭を休むる爲に少時間するのはよいが、際限なく寢て居るのは宜しくない、殊に夜更しをして其代りに晝寢をする等は言語同斷であります。

(二)執務と休息　日本の人は一體に休息と云ふ事を等閑に附して居る「今の若さで休まねば仕事が出來ぬ樣な事で如何なるか」と叱る父兄さへある位である。此複雜な世の中に之れではとても遣りきれるわけではありません。仕事をする時とか勉強をする時とかは極めて熱心にやつて、一定時間が來れば直に已めて全く放れて休息せねばならぬ。此休息時間は甚だ惜しい樣で、無益な樣に見ゆるが決して左樣でない。休息を取たが爲に頭が休まつて次の仕事が大に捗取るのである。然るに一定の休息をせずしてず

るり／＼と嫌々ながら遣つて居ては一向進まないのみならず、頭の休まる時が無いから疲勞も甚だしいのであります。實に愚の至りであります。殊に食前と食後の三十分間は是非休息して頭を休めて居る必要がある。勉强を一心に續けて來て、直に食事をする等と云ふ事は消化にも惡く、頭にも大變善くありません。食後の休息について尙一言して置きたいのは、昔の人は食後直に寢ると云ふ事は惡い事だと思つて「横になつたら牛になる」とか「鬼になる」とか言て戒めて居ますが、之れは大なる誤でありまして、食後一寸十分か二十分間位寢ると云ふ事は大變衛生上よい事であります。全く頭を休めて其間に胃の方の活きが専門に行はれるから、消化にも大に便利なのであります。併し此時に長く寢る事は宜しくない、斯の如く種々の方法で休息するのは結構であるが、又勉强や執務中に必要な事は仕事を變化する事である。面倒くさく成て倦怠を覺えた時に其仕事を止して、他の仕事にとりかゝる事は休息の代りとなつて、頭を休むる上に效果が多いのであります。

(三)攝生を守る事　之れに第一必要なのは飲食の養生であります。神經衰弱を豫防する爲に難かしい食養生を要する程の事はありませぬが、只胃病に罹る事の無い樣に注意せねばなりません、胃病と神經衰弱とは大に關係の深いもので、胃弱の爲に常に頭がいたくてならぬとの聲は往々聞く處であります。だから其爲に注意する事は、暴飲暴食を避ける事と、間食を嚴禁する事とであります。次に適度な運動をし無ければならぬ、食事は普通にして居ても運動が足りないと何處となく氣分の惡いものであります。尙大切な事は情慾を抑制する事であります。殊に春情發動期の青年男女は此時十分に注意しなければならぬ、卑猥なる小說雜誌を手にせぬ樣にし、相集まつて卑猥なる談話を交ふる事を避け、其樣な時間があらば勉めて運動をし、散歩をし、夜は床に入らば直に寢ね、朝覺むれば直に起き出づる樣にする事も一の方法である。

(四)子弟教育上の注意　神經衰弱の豫防法として尚一言注意して置たい事は子弟の教育につきての誤謬であります。日本では何でも小兒に澤山の事を敎へやうと思ふ考があり過ぎて常に弊害を來す事があるまだ乳呑兒の時から、何か藝の出來るのが自慢で種々の事を敎へる。まだ漸く言語を話し得る小兒に早や「いろは」を敎へる。年齡を僞つてまでも早く小學校へ入れやうとする、實に以ての外である。滿六歲になつて小學に入學を許すのは此時に成て始めて小兒の發育に一變化が來るからである。それ迄は非常な勢で發育して居るのに、其時に種々小兒に取つて難かしい事を敎へるのは、強て小兒の發育を妨げる樣なもの、換言すれば親が完全なる小兒を不具な者に作り直す樣な物である。以ての外と云はねばならぬ。一般に斯かる考があるから、日本では現今でも小學校の授業時間は少し多きに過ぐる傾がある然るに亂暴なる父兄は此荷の重すぎる學校の課業を終て來た小兒を捕へて、又もや重荷を課する爲に放課後敎師の宅に送つて、讀書算術を學ばしめ、英語を迄も強ふるのである。それをまた僅の利益の爲に歡迎する敎師もある。斯の如くにして大切なる子弟の頭腦を既に少年の時代に破壞し、其身體の發育をも妨止して、救ふべからざる重症の神經衰弱の種を播て置て、而も後年に成て子弟の無能を責むるのは何と酷な次第ではありませんか。

第五　神經衰弱の治療法

前章豫防法に述べた事は皆治療法としても用ゐなければならぬ。特に神經衰弱が起つてから取るべき治療の方法としては

(一)一般の治療法　としては先づ、輕症の者には精神と肉體との休養である、仕事の間々で休息させ、午前午後に三十分間位宛睡眠をとらせるのがよい。身體の瘦弱を來して居る者には多くの營養を取らせる。始に牛乳を與へ、後には何でもよいから澤山にやる。かくて身體を一般に丈夫にさせ、其間々で西洋按摩をやる、感傳電氣をかける。酒は嚴禁し、煙

草も可成は止めるがよい、極く重症の者には臥床せしむる必要がある、之等凡て醫の命令をまたねばならぬ。

(二)睡眠法　一般の治療をすれば不眠も自ら恢復して來る筈であるが、特に睡眠につきての注意は就寢前三十分位は事務なり勉强なりを全く棄てゝ、快談するとか、庭に逍遙するとか、微吟するとかして身心を爽快にしてから床に入る。就床前に湯茶をのみ間食をし、心配事や卑猥の談話等は斷じて避くべきてある。又就床前に冷水摩擦をやり、深呼吸をやる等は甚よい。かくて就床前に一度窓を開けて空氣を通し、直に又閉めて燈は消し、衣服は皆着けて居たものは殘らず去つて、淸潔な寢衣に換へて床に入る床に入つた後は可成何事をも考へぬ樣にして、ぢつとして居ればよい。それて眠られずば睡眠法を行ふ、其一は暫時呼吸を大くする事てある。其爲に體內に溫度が高まつて眠られる。又は靜に一二三を數へる。何事も考へずに數へて居れば勞れて眠られる。又は何かある一物をぢつと見つめて居る、其爲に眼が勞れて眠れる等である。それでも尙二時間も三時間も寢られない樣な人は睡眠劑を用ゐねばならぬ、其藥は後に述べる事としましやう。

(三)電氣療法　之れも有功である、脊髓に平流電氣をかけるのである、兩極を額と背とに置きてかける。又筋肉に疼痛のある患者では感傳電氣をかける方がよい事もある。何れにしても醫の治療を乞はねばならぬ。

(四)水治法　水治法は患者自身に行ひ得るから便利て且つ有効てある。それには頭部又は背部の灌漑法てある。身體の虛弱なる人には微溫き水を用ゐ、强き人には冷水を用ゐる、溫湯き水より漸次冷くして行くのもよい。又灌漑法の代りに冷水て摩擦をやつてもよい、又冷水て摩擦して皮膚が紅を呈して溫き感じが起る樣にならねばならぬ。每日就床前と起床後とにやる樣にすればよい。

(五)轉地療法　之れもよいが先づ醫者に就いて一般

の診察を受けた後に轉地するがよい。行くには强壯の人ならば大洋に面した荒海や、山間に行くもよい。虚弱な人は靜な温な處に行くがよい。只必要な事は常に氣樂で居る事の出來る轉地でなければならぬ費用のかゝる暮し方をして、毎日金の心配をして居たり、又轉地した先に心を感動さす樣な事柄があつたり、轉地した爲に後に心配せねばならぬ樣で何の効も無いのであります。

(六)藥劑　藥品として神經衰弱に一般に用ゆるのは臭素劑であります。「臭素加里」、「臭素ナトリユム」、「臭素アンモニユム」何れもよい、或は此三つを同量にまぜて用ゐてもよい。不眠の時に用ゐる藥劑として催眠劑は何でもよいが、多く用ゐられるのは「ズルホナール」、「トリオナール」、「抱水クロラール」等であります。頭痛の時には、臭素劑で功が無くば「アンチピリン」、纈草劑、「ワリドール」、「ストリヒニン」等を用ゐる、阿片、「モルヒネ」等は用ゐては宜しくない。又心季亢進等のある時には「ベラドンナ劑」を用ゐる。



肺結核の自宅看病

S・N・君

肺結核は決して不治の病ではなく、療養其宜しきを得れば結構全快し得るものであります。

多くの人は醫者から肺結核と診斷されると恰かも死の宣告でも受けたかの如く考へて、失望落膽するものでありますが之は甚だしい誤解であります。一度肺結核を患へて療養法に適ひ、全快してゐる人は世間にいくらもあります。又病理解剖で見ましても一度肺結核を病ひて全快し、能く六十七十の高齢を保

ち、他の病氣で死て解剖室に來る人も澤山あります。之等の事から考へても全治し得るものである事は明かであります。只悲しい事には今日未だその特効藥が發見されてゐませんから長い年月の間、患者自身の正當なる考へと、看護人の忍耐とが極めて必要であります。

肺病は實に傳染病で、又氣候空氣等の關係が甚だ大切ですから、出來るなら氣候のよい所の病院にて治療するのがよいと思ひます。が、色々の事情で自宅で治療しなければならない場合があります。例へば自分の信頼せる病院が滿員であるか、入院の費用にたえられぬか、年月住み馴れし家を後にして病院に行くに忍びざるか、かゝる場合に患者自分の心懸けと看護人の注意が、充分に醫者の要求に適ふならば、自宅で治療しても甚だしき不都合はなかろうと思ひます。

肺結核の如き重き慢性の病氣を看病する人は、特に一層注意して極めて瑣細の事に迄心を用ゐて、患者の感情を害はぬ樣にせねばなりません「病は氣から癒る」とは古來の金言で又實に經驗の聲であります。之と同樣に病は又心から惡くなるものであります。看病人の處置當を得ずして患者を怒らせるか、又は悲ませる樣な事がありますと、忽ち食慾は減退して胃腸の消化力を害します。常に健康の人でも憤懣その度に過ぎ不平慨歎の餘り病を發し、又餘り深き悲歎に沈める爲めに毛髮急に光澤を失ひ、白色に變ずるなど云ふ事はあり得る事であります。特に肺病の人は神經頗る過敏になり、僅かの事に刺戟されても忽ち興奮し、忽ち悲み忽ち心配すると云ふ風であります。故に其看病人たる者の用心注意は非常に必要の事であります。

患者を常に晴々しく安樂に日を送らせると云ふ事が、看護の第一義でありますが、さて如何にして之を爲し得るか、如何なる事が不可なるか、私は今之を思ひ浮ぶがまゝに少しく述べて見たいと思ひます。

誰でもそうでありますが、特に患者は神經が過敏でありますから、外圍の狀態によりてその心を支配される事が、普通の人よりも更に一層大きいのであります。

先づ看病する人は患者に對して心からの同情を表はし充分深切丁寧に之を扱ひ、又よく常識を備へて常に適當に患者を慰藉する事が必用であります。患者幷に自分の衣服は常に清潔に保つ事は勿論、その外に美と云ふ觀念を忘れぬ樣にしたいと思ひます。」要するに看病人自身の清潔と美とによりて患者の心を快活に晴々しく保つ一助となすのであります。

之に次て大切の事は消毒であります。肺結核は一種の傳染病である事は多くの人の知る所であります然し世間で考へてゐる程劇烈な傳染病ではありません。神經質の人はその患者の近くを通る事をさへ恐れるものもありますが、決してそんなに烈しくはないのであります。患者に觸れた位の事では傳染はしません。最も傳染の恐れあるのは患者の吐き出す痰であつて、此中には實に無數の結核菌が居りますが呼出する息の中には居りませんから、此痰さへ注意すれば傳染の患ひは殆んど有りません。然らば此痰は如何に處置すべきかと云ふに、之は痰壺を備へて置て必ずその壺の中に吐かせる、痰壺はなるべく小さくて患者なり看護人なりが持ちはこぶに都合よいのを撰び之に半分程水を入れ置くのであります。之によつて痰は壺に粘り付く事がなく容易に清潔に掃除する事が出來、又痰が乾燥してその中にある黴菌が空氣中に舞込むのを防ぐ事が出來ます。かくて痰壺は毎日少くとも二回は洗ひかへ、その都度壺に石炭酸か昇汞水か又はソーダ水を注で、後に痰を捨てるのであります。地面の上に捨てれば痰が乾燥してその中にある菌黴が空氣中に舞ひ込み他の人に傳染する恐があるから河の如き常に乾燥する事のない所に捨てるのであります。

かくて壺は再び消毒液にて洗ひ、元の如くその中に水を半分程入れて置くのであります。

若し必要ありて患者が病室外に出る時には（患者の室は一定して置くがよいのです）必ず痰壺を携へて行くようにする。然し人中に痰壺を持て出ると一見して肺病患者なることが分り、従つて人に嫌はるゝので何人も之を持つて行くことを好みません。之は患者も能くないが世間の人が無暗に結核患者を恐れ嫌ふ罪でもあります。結核を過度に恐れる結果その患者と語を交ふる事をさへ嫌ひ、患者は又人より嫌はるゝ事を苦痛に感じ、自己の病を隠蔽し却て病毒を傳播するに至るのであります。

若し強て痰壺を持行く事を嫌ふならば、必ず手布巾を用意してその中に痰を吐く様にするが好い。決して地面に吐てはなりません、その手布巾は家に持ち歸りてよく消毒して後洗濯する。痰の消毒と云ふ事は自宅看病の最も重要なる一部づゝ之を少しにても忽にすれば他の事を如何に注意しても傳染の恐は免れぬのであります。

痰の外には尚ほ患者の食器を注意すべきであります、痰の多く出る患者はその痰の一部分が唇又は歯に附着して殘てる事が往々ありますから、患者の用ゐる食器は一切別にして、他の家族の食器と混同せぬは勿論、之を洗ふにも先づその器を桶に入れ、之に消毒液を注ぎて後、清潔の湯で洗ふのが好いと思ひます。その外患者の身體に觸れた時、患者の痰壺寢具患者の周圍にある器具等に觸れた時は、必ず充分に石鹸を以て湯にて手を洗ふ、特に自身の食物を調理する時、食する時、その食器に觸るゝ時には注意して洗ふ必要があります。石鹸と湯を用ふる外に石炭酸又は昇汞水等にて洗ふのは又缺くべからざることであります。

○家屋と云ふ事が亦大に患者に關係ある事で、如何なる事情ありとも濕地て、日當りの不充分の家、及び餘り狹くて家族が多過ぎる爲め一室に多數の家族が起臥飲食し、特に患者を他の家族と仝室に起臥飲食すると云ふ様な事が有てはなりません。若しかゝる事がありとすれば患者の爲めにも不利益で、家族

にも傳染する患ひが甚だ多くあります。かゝる場合には是非共入院させる必要があります。

自宅で治療するには患者の室を一つ定めて置いて他の室は決して患者の爲めに使用せぬ樣にする。然し前述の如く結核は「チブス」や「ハシカ」と異なりて、その病人に觸れたからまた息を嗅だからと云ふて傳染するものでもありませんから、家族を一切その室に入れることを禁ずるとか、親友の訪問を謝絶するとか云ふ必要はありません。却て家族や親友が常に病床に侍して慰安を與へる事が必要であります。

偖てその病室は如何にすべきかと云ふに、少くとも二ケ所以上の窓があつて、空氣及び日光の流通が良くなければなりません。清潔を保つ爲めに少くとも一日一回は掃除する。その際妨害にならぬ樣に不必要の器具は一切置かぬがよい。さればと云ふて室の四面只壁を以て被はれ、患者をして恰かも空屋に一人在る如き感を懷かしむる事は甚だ面白からぬ事であります。故に室内は掃除の妨害をなさぬ範圍に於て美しく裝置するが好い。例へば美しき繪を壁或は床の間にかけ、四季折々の花をうへ、その外美術品を以て裝置する事が必要です。又机を備へて看護日誌を書くに便じ、又時計を置き病人をして之を眺めて退屈をまぎらするのも心地好いものであります。

室内の空氣を常に清潔新鮮に保つ爲め一日に二三回窓を開て空氣の交換を計る。其際患者の身體をよく被ひて風邪を引き込まぬ樣にする、寒い時には餘り長く開けて置く必要はない。特に日本の障子はよく空氣が流通するから寒い時などは特に度々開閉する必要はありません。夜間窓を開けたまゝ寢るのは冬期に於ては特に避くべき事で、室内の空氣が餘り冷へる爲め咳嗽を誘ひ、風邪を引き起す等色々の障害を來します。

春の末から夏にかけ氣候のよい時には障子をなるべく長時間開けて、充分に新鮮の空氣を呼吸さする

様にする。特に心浮き立つ春暖の時に窓を開けて温和なる日光に浴し、百花の艶を競ふ庭面を眺むる事は長き病に疲れし人の心を快晴にし、食慾を増進さする上に於て逸すべからざる好機であります。夜間と雖も餘り暑苦しい時には窓を開て寝ても差支はありません。

客が病室で喫煙する事は患者か嫌はない限りは禁ずる必要はないが、物を煮たきする事はいけません煮る爲めに火を燃やし、それから悪い瓦斯や炭酸瓦斯が出て空氣を不潔に致します。夜間の燈火は電氣燈が最もよいが、之の設備のない所では普通の石油ランプを用ひて差支ありません。只よく吟味して油煙の多く出る石油は之を避けねばなりません。

患者は特に神經が過敏で非常に感じ易いものであるから、室内の温度が少し不適當であつても直に不快に感じるもので、病室には是非共寒暖計を掛けて其温度を常に烈氏の十四乃至十五度位に保つ様にする必要がある。その外室内の空氣が餘り乾燥すれば咳嗽を促がし、爲めに衰弱を招くに至る事があるから、鐵瓶に湯を入れて火鉢にかけ、絶えず蒸發せしめ、空氣の乾燥するを防ぐ様にする。或は濡れた手拭を窓に掛けて置くのも一方法であります。

夏は自然のまゝに任せては熱くして患者は勿論看護人も弱りますから、出來るだけ室内を涼しくして置くのが宜いそれには氷を置くか、庭の植木や庭石に度々水を注ぐか、又北向きの室を撰て病室にする。

寢汗の爲めに夜中度々目を醒まして眠睡を妨げらるゝ事があれば、夜具をはいて薄くしてやる、午後から夕方にかけて熱が上る爲めに患者が熱く感ずる時も同じ様にする。夜中から明け方にかけては外の空氣も冷へ、體温も下りて寒く感じ、目をさまして頻りに咳嗽を催す事があるから、夜中に成れば患者の醒ぬ様に夜具を増してやる。一般に結核患者は足が冷へる、而して足の冷るのが又咳嗽の原因になりますから「フランネル」の柔かな布て足を輕く摩擦

して温めてやる事が必要です。醫者から許さるゝならば時々床の上に起き直り、又は室内を歩きまはる事は病中の退屈を慰むる一助となり兼て榮養をます所以であります、此時には寒くない樣に充分に衣服をきせる。暖かな日には庭を散歩して風の少ない日光のよく當る所で日光浴を試むる事は甚だ結構の事です。殆んど凡ての黴菌は日光の爲めには死滅する者であります。

今一つ看護の重大な任務は患者の營養を計ることて、營養は實にその體力を保持するのみに止まらず、體内に侵入せる黴菌に打ち勝つには極めて重要な者であるが、扨て患者は病の爲めに神經質になり、少しの事でも食慾を減退し、又常に床にありて運動不足の爲め食氣甚だ進まざるものでありますから、之に多量の食を進むる事は實に看護の手練を要する所であります。這は看護人その人の人格に關係する事甚だ大なるは勿論でありますが、その外注意さへすれば成し得らるゝ二三の要件を述て見ましよう。

食物は何を食しては惡いと云ふ事はありませんが、只餘り油ぎつたものや、硬い不消化な者はいけません。例へば油あげ、天ぷら、ごぼう、竹の子、こんにやく、の類はいけません。務めて營養に富だ消化し易いものを撰て、仝じ材料でも調理法を色々に變へて美味に料理して患者をして飽かしめぬ樣にする。すべて其料理する所を見せてはいけません。魚の膓や、肉切れが無作法に置てあるのを見るとそれを食する時患者は之を連想して直に食氣を減じます。食器も美しいのを撰び、食物の色の配合も決して忽にする事なく、御膳も茶椀も亦健康の折に用ゐてゐたものが好い。その折々の香の高い花や美しい花を食卓の側に置くのもよい。食事前に患者の好嗜品を聞くのはよくない事で、患者は餘り考へて遂には何れも嫌になることがあります。故に食事時には患者に問はずに看護人は自分の豫定の如く適當な料理をして御膳立をして出すのがよい。又食事中にもその前にも面白い話をし、或は面白い本を讀て

患者を快活にさせて置くのがよい。少し飲める人には食前に少量の酒を與ふれば大に食慾が增してよい。若し食事時に食することを拒めば强て勸めずに置て面白い遊びなり話なりして少し樂まして不意に御膳を出すと急に食る氣になる事がある。食事の前後にはすべて不快の感を誘ふ樣な便器、痰壺等は目に付かぬ所に片付けて置く。

食後すぐに吐く樣な事があれば食後は靜かに床に倚掛からせて置く、又話をせぬ樣にし、胃の所に罨法をし、或は氷片を飮ませる樣にする。最良法は食後直に眠る樣にするのです、患者が喀血する樣な事があれば直に醫師を迎へる事は必要ですが、看護人はその間患者の上體を高くし、少しも動かぬ樣に全く安靜にさせ、家人は注意して患者の機嫌を害はぬ樣にし、且つ適當な慰を與へる。又患者の心臟及び患部に氷嚢を置き、患者の側に柔き鉛筆と紙とを備へて用事は之に書かせ、決して口をきかせぬ樣にする。その外出來るだけ腦を動かせて、患者の要求する事をその顏色態度てよく讀み分る樣にする事が大切てあります。



小兒の發育

S・N・生君

凡そ婦人の一生にとり何が最も樂みて且つ最も幸福てあるかと云へば、恐らく初產の無事にすんて、可愛らしい嬰兒の顏を見る時てありましやう

あゝ此兒を無事に育て上げ、我が老いて腰も屈れるその時は杖としてすがりもせん、柱としてもたれもせん。此兒を無事に養育して我か一代に盡さざりし理想を實行させせん。此兒を育てゝ圓滿大悲の慈善家とせんか、大將とせんか、將た又學者と育てゝ我が

國の榮養とせんかなぞ、思へば母の心は希望の光に充ち充ちて、自身が望を遂したよりも尙嬉しいことでありましよう。然し花には嵐の譬、此嬉しさ樂しさも養育その度に適はざれば、忽ち果なき夢と消え失せるであります。然らば如何にせば此喜び、此樂しみを持續することか出來るかと云ふ事に就て一言するのも、強ち無益な事でもありますまい。尤も此問題の解決には各種の方面の學問からの研究を要することでありますが、私は單に醫者に關係した方面の事を申上げやうと思ひます

（一）初湯

赤兒が產れたら、初湯はどうしてつかはせるかと云ふ事は、先づ第一に大切の事であります。之からその兒が達者に育つか育たぬか、えらい人になるか成らぬかと云ふ事も、凡てその兒の行末の事が此初湯をつかつた後で解決される問題であります。

先づ子供が產れたら、すぐに華氏寒暖計九八度位の溫度に保て置かねばなりません。それには九八度位の湯タンポを入れた柔かい布にその兒を包むのであります。而してその溫度は常に變らない樣にして置かねばなりません。元來赤兒は外界の溫度の變化に對して少しも抵抗する力がないから、よく體溫の下らない樣に注意する。又母の體から外に出れば、外の空氣にその體溫を奪はれて冷へる故充分に溫かく包で置かねばなりません。溫かく包む前に先つ柔かいフランネルの布にオレーフ油を浸し、胴や股をよく拭て。清潔にする。特に皺のある所、手足のくびれ目などは注意して拭てやる。然る後に溫かく包み、次に同じくオレーフ油に浸した布て、顏や手足をきれいに拭く。之が即はち第一の初湯であります。之より二十四時間の後、或は弱い赤兒なら四十八時間の後に眞の湯に入れる。その室は華氏八十度位にして、湯は九十八度位、即ち血液と仝じ位の溫度にして置く。桶の縁には毛布をぐるりと掛け、赤兒が頭や體を桶の縁へ當ても、傷を生ずる恐のない樣にしてをく。今迄布の中にありし兒が急に湯に入るので

その感じが異り、赤兒の弱い神經は頗る感動して驚きますから、驚かせない樣に靜かに湯の中に入れる樣にする。又丸裸にして入れるのは惡い、裸にしてそろそろ湯に入れようとする間に、外の冷い空氣で體が冷へ、又その冷たい空氣が體に觸れて赤兒は不快の感を懷くものであるから、之を避る爲めに「タヲル」て體を包て湯に入れる。體を入れる前には先づ柔かい布てその顏と目とを洗てやる。小兒の眼病の一部分は此時の不注意の爲めに、體を洗ふた湯が眼に入て起るものであるから、之は特更注意すべきてあります。

之だけの用意を濟して後に體を入れる時には、褓母の左の手が赤兒の頭を支へて湯の中に浸さない樣にし、右の手て充分に體を洗てやる。くびれ目の所や、耳朶等は特によく洗てやる。殊に良い石鹼を柔かい海綿に付けて洗つてやる。かくて二三分の後に湯から上げ、乾いた「タヲル」の上に上せ、直ちに之に包みて體の一部分づゝを出し、柔かく拭て乾かし、全身全く拭き終れば直に初衣を着せずに暫くの間乾た「フランチル」の布に包でおく餘り弱い生れ付きの赤兒は强て湯を使はせない方がよい、その代り「タヲル」に包みて九十八度の湯を海綿に浸し、石鹼を付けて少しづゝ體を出して洗てやるか、或は今日足の方を洗て明日手の方を洗ふと云ふ樣にして、一度に體全體を浸さない樣にするのがよい。常に體をむき出しにして、空氣にさらす事は避けねばならぬ。

毎日湯に入れて洗てやると云ふ必用もなからうかと思ふ經驗ある或醫師の言によれば、毎日湯を使はせるとその兒が短氣になるとか、又餘り數々湯に入れる兒は虛弱になるなぞ申しますが、果して眞なりや否やは直に斷定することが出來ません。兎に角毎日入れなくともさして害はありません。

要するに毎日入れるかどうかと云ふことは、その兒の强弱に關することとて、一概には言へませんが、弱い兒は毎日湯を使はせるのはよくない事てあります。



質疑

●問　前略御多忙中甚だ恐入候得共妊娠中の攝生法に就て何卒御教示下され度併て通俗的の書物有之候はゞ御示し下され候樣願上候

東京牛込原町　會員　某

●答　妊娠中は病氣のため已を得ず醫療を仰ぐの外は猥りに藥劑等を用ひず且つ平生の生活法も可成變ぜぬ樣一通りの攝生方を守つたならば寧ろ虚心平氣で愛度出產日の到來を待ちつゝ樂しく暮すのが一番攝生法であります扨て其方法は新鮮の空氣中に於て適度の運動を試み、且つ身體殊に外陰部を清潔にする事は甚だ必要でありますけれども冷浴、脚浴、海水浴及び重荷の上げ下ろし、舞踏、人力車、汽車、汽船に搭乘する事、長時間の跪坐等は宜しくありません、洗濯の如き過度の屈伸、怒責を要する事は往々妊娠を中絶せしむるの虞れありますから大に注意を要する所以であります

○○衣服　は氣候に適して撰ぶべきは勿論であるけれども成るべく寛濶なものでなければならぬ、溫保の目的として稍や廣きフランネル帶を以て腹部を平等に纏絡するは宜しけれども細帶を以て腹部を緊束するが如きは極めて不可ませぬ

○○飲食物　強て平生の習慣を改むるの必要はなけれども消化し易くして滋養に富めるものを適度に用ひ諸種の刺戟性飲食物例へば芥子、番椒、山葵、酒精性飲料の如きものは禁じなければならぬ又就眠前の飽食は甚だ宜しくありません

○○便通　は是非調整し置かなければなりません若し便秘するときは毎朝起床後適度の運動を試み且つ一椀の冷水又は冷牛乳を飲み毎朝一定時間に便意の有無に拘はらず上圊して一定の習慣を作る樣にするのが肝要であります

○乳房は將來育兒の重任を負ふ處の唯一の機關でありますから大切に保護して毎日一回冷水又は亞留個保兒を以て能く之を拭淨して淸潔に致される樣心懸け度きものです

○精神は專ら安靜快活にしなければならぬ故に妊娠中は暫く家政上の事などに就て精神を勞する事を避け其他凡て悲慘なる場處に出入することを嚴禁せらるべし、又悲哀なる小說、談話等を見聞する事も甚だ宜敷からぬ次第であります

又御尋ねになりし（通俗的の書籍は醫學士櫻井郁二郎校閱、廣瀨弘見著「妊產婦の心得」全一冊正價三十錢）發行所は本鄕區湯島切通しの南江堂書店にあります



雜報

○東京帝國大學へ御臨幸

東京帝國大學に於て去る十一日卒業證書授與式を舉行せられしが　天皇陛下には同日午前十時御出門あらせられ同十一時御着輦あらせられたり、牧野文部大臣、濱尾大學總長、大學醫員及び學生生徒一同門前に於て奉迎し濱尾總長の御先導にて便殿に入御暫時御休憩此時大勳位、親任官、同待遇及び總長拜謁出御總長御先導にて標本古文書等を　天覽に供へ、出御の節大學高等官及外國敎師廊下に整列拜謁、御休憩、總長の先導にて卒業證書授與式場に臨御式終つて便殿に入御暫時御休憩の後十二時三十分還御諸員奉送す、當日醫科の優等生にして御賜（銀時計）の榮譽を荷ひしは柿內三郎、熊谷徹藏の兩氏なり

○私立衞生會の講習所

大日本私立衞生會は去る二日午前一時日本橋區坂本町東京醫會本部講堂に於て衞生事務講習所の開講式を擧行し當日は同會副會頭北里博士、同理事長金杉博士、同評議員長與博士其他各講師臨席の上一場の講演ありたるが講習生は各府縣に於て衞生事務に從事せる官公吏等六十餘名にして三日より左記講習科目及講師により講習を開始されたり

科目	講師
一衞生學大意	醫學博士　横手千代之助
一衞生統計の大意	横山雅男
一衞生に關する法令	法學士　小橋一太
一細菌學大意 一傳染病豫防消毒實施法 一船舶汽車檢疫法 一避病院構造及取締法	齋藤謙郎
一營造物及飲食物檢査法大意	永嶋忠
一衞生に關する營造物及工場の實視	工學士　金澤孝助
一救急法大意	吉川春次郎

○萬國衞生會議參列員

本年九月獨逸國伯林にて開催の萬國衞生會議へ參列せらるべき內務省參事官有吉忠一、同省技師池口慶三、傳染病研究所技師柴佐八郎の三氏は去る十日橫濱發の若狹丸にて出發されたり

○遠山博士の出發

獨逸國伯林市に於て開催の萬國衞生學會民勢學會參列幷に歐洲各都市衞生設備の實況調査等の爲めに派遣を命ぜられたる東京市技師醫學博士遠山椿吉氏は去る十日午前九時新橋發午後二時橫濱解纜の安藝丸にて渡航されたり

○癩療養所の費用

癩療用所の設置場所は愈々東京、青森、大阪、香川、熊本と決定したる趣にて其設置の場所は前記各地方長官をして管下便宜の所に選定せしむる筈なるが一ケ所四百餘人を容るゝに足るの設備にして其職員は院長一人醫師一名調劑師一名書記數名を置く事とし其建築總經費は一ケ所二萬八千餘圓初年度調辨費四千餘圓、合計三萬二千餘圓を要し內二分の一は國庫より之を補助する事とし年々維持費四千餘圓も其內幾分は國庫より補助する事となるべしと云ふ

○ペストの病源

横濱市のペスト病に就ては過般來其筋に於て頻りに研究中なりしが天神山と云ひ内田町と云ひ孰れも倉庫より持出せる滯寄米に附着せる毒菌が鼠族より人類に傳染せる事云ふまでもなく尚ほ其の輸入米は印度方面よりせる外國船舶に在るを確め進んでは其船舶が何號なりしやをも確認するを得たる由にて系統は印度よりせるを明らかにせしに依り將來の豫防上に就ては主として此方面を警戒する筈なるが今少しく遡りて印度ペストの流行と全國乃至横濱市のペスト病との關係を聞くに左の如し

年次	印度の死亡數	日本の死亡數
三二	一三五、〇〇〇	六二
三三	九三、〇〇〇	一六二
三四	二四四、〇〇〇	三
三五	五七七、〇〇〇	一四
三六	八五一、〇〇〇	五七
三七	一、〇二二、〇〇〇	一
三八	九五一、〇〇〇	二九五
三九	三三二、〇〇〇	四一五
四〇	四九五、〇〇〇	八〇

前記の内卅五年の十四人中横濱市に八名卅六年の五十七人中横濱市五十名、又今四十年の八十名中には現在の六名を數へ其他の年次就中三十七年度市に一名もなかりしは郵船會社の船舶が御用船となりて孟買航路の中止と印度米を輸入せざりし結果なりしと

○模範的日本家屋

大日本私衛立生會が本年一月の評議會に於て決議せる事項に基き來る九月一日より獨逸に開かるべき萬國衛生博覽會に出品する筈の模型日本風衛生家屋は（本誌冒頭の挿圖）本年二月工を起し約三ヶ月餘を經て此程漸く竣成したるを以て去六月三十日右模型を荷造ー横濱へ向け荷出しする事となりしが同建築家屋の精巧無比にして工匠が苦心の結果なる事は左に掲ぐる說明によりて推するを得べし

家屋の標準出來上りたる大きさは六尺六寸四方に高さ二尺六寸にして一見細工品には相違なけれど自ら宏壯なる趣ありて實物大の建築を見る如き心地せらるゝは先づ非凡なる細工人の技倆を見るべし右は本邦現時に於ける紳士の住宅を標準とせるものゝ由にて玄關構より見れば昔の大名屋敷の如くなるが大

體よりすれば先日本家屋の趣味を土臺とせる和洋折衷とも云ひつべし若し之を實際の建築に應用する時は其建坪百二十五坪五合、内二階家四十一坪五合、平家七十八坪五合土藏五坪五合の割合なりと

遺憾なき設備　各室の配置を見れば應接室あり書齋あり女中部屋書生部屋勝手湯殿（勝手湯殿共水道栓あり）其他細々しき居室ありて斯る複雜を極めしにも拘はらず能く光線射入の平等空氣の流通の自由鼠族の棲息を防止する方法等衞生上一定の需要に適應する樣工夫を凝したるは極めて用意の周到なるを見るべし尙ほ設計者細工人等の注意せる處は右の光線の射入に關しては座敷、書齋、客室等重なる室は其位置を東南方に面せしめ且中庭を設たるによりて側面若くば背部の採光に便ならしめ空氣の流通に關しては光線射入の構造に伴ひ之を自由にするの外椽側、長押上、蟻窓の外疊廊下等の部分其他各室に各種の窓を設け換氣に十分ならん事を期し鼠族の棲息に對しては建物周圍の地形にコンクリートを用ゐ其上に側石を据ゑ床下は總べて敲きとなし其周邊に無數の換氣孔を作り之に金網を張り板戸を附し（板戸に夏冬兩期に開閉自在なり）たり此等は防鼠に適せるのみならず床下の防濕及清潔を保持する上に於て多大の利益あるべく若し鼠族の天井裏に進入したる時は之が捕獲に便せん爲め天井に上り同屋上に明り取り兼空氣拔窓を設け臺所も必要の部分は金屬板を以て包被し同所にも淸潔と防鼠とに對しては遺憾なき設備を爲せり

四寸が一間の割　設計の寸法によれば四寸を以て實物の一間に對比する割合なるが仔細に見れば見るほど技巧の緻密なる處が表はれ障子の棧、襖の取手より疊の一疊〱皆實物と同じき備後表の目の細かなるなど人をして其の精巧に驚かしむるもの多し

工費千三百圓　以上は總て日本固有の風趣を存するやうに計り屋根の瓦葺、表見附入、母屋造、式臺附の玄關等皆之に則りたり土藏一角に斷面を示して日本の土藏とは如何なる物品を貯ふるものなるやの

一例を示さんが爲に小さき桐の簞笥を飾りたるも面白し右設計者は元陸軍の建築技師なりし佐藤豊次郎氏にして請負人會根英雄製作人吉原吉次郎の三氏が經營の結果此の美事なる模型建築を大成したる次第なるが工作者の手柄は大に海外に向つて誇るに足るものあるならん

○巻煙草の有毒量

煙草の需要は年々増加するばかりで韓國へ送る巻煙草のみでも決して尠なからず元來煙草は一種の嗜好品であるから之が一旦口に慣れると却々禁煙は困難なものなり酒にアルコールを含有する如く煙草にもニコチン量を含んで居て多量に喫煙だ結果往々ニコチン中毒を起す事あるは誰も知る處なり、故に喫煙家は成可くニコチン量の尠ない巻煙草を撰ぶ事は衛生上緊要なる問題であるが、衛生試驗所では是等の必要上、ほまれ、朝日、大和、敷島、リリー、チエリーに就き分析した結果左の如きニコチン量を確認し得たとの事なり即ち

	百分中
ほまれ	〇、八四二
朝日	〇、七六一
大和	〇、九〇四
敷島	〇、九五二
リリー	一、五八九
チエリー	一、六八二

是に由つて見ると朝日は尤もニコチン量が尠ないのでチエリーが一番多いから、同じ喫煙するにも衛生上第一に朝日を賞用しなければならぬのである偖夫れと同時に喫煙上注意すべきは火を點ずる前に先づ巻煙草を舌で濕すものあるを見受くれど之は是非禁止するやうにしたしニコチンは液體に逢ふと容易く溶解するもので丁度凝固つて居た石鹼が水に逢ふとヌラ〲溶けると同じやうに溶解したニコチンは一層中毒を起し易いから斯くの如き癖のある人は速に矯正されたきものなり

○室内消毒薰香燈

今回下谷池端の寶丹の本舗守田治兵衛が實用新案の特許を得たる該燈は室内衛生法に就き多年苦心しつ

つありし千葉醫學專門學校教授平野一貫氏の發明に係り嶄新なる清娛と衞生とを兼たるもの試みに火を點ずれば燈心に接せる白金球は球の熱すると共に絶えず薫香を放ち少量の香水にて忽ち室内に薫氣滿ち同時に生ずる一種の瓦斯は無害にして優に殺菌の効大なれば客室、病室、應接間、書齋等には最も適當の器具なりと云ふ

大日本婦人衞生會記事

○本會七月例會

本月六日(第一土曜日)午後一時半より神田一ツ橋通り女子職業學校内に於て開會せり、此日本會總裁東伏見宮妃殿下は御紋付水色の御單衣を召し玉ひ、上野御用掛を從へて御臨場あらせられ、副會長濱尾夫人の御先導にて會場の御椅子に着かせられたり、此時一同敬意を表せり、先づ片山博士は「飲酒問題と婦人との關係」てふ題にて酒は有害無益にて西洋ては麥酒を滋養のパンと稱すれど害多ければ呑まざるに如かず統計上より短命者及び病者は飲酒家に多く一千八百六十四年瑞西にて葡萄豐熟のため葡萄酒非常に安く飲む者多かりしと見へ其年に生れたる兒童は主に頭腦鈍きより同國にては馬鹿を六十四年と異名せりと又生命保險會社が飲酒家に對して保險の診査に注意を拂ふに至れるも近年の事なり、殊に獨逸帝は勅を降して兵營内に於ては酒の代りに珈琲を用ひよと宣ひしとかや、抑も飲酒の恐るべき害を防ぐには大に婦人の力と注意とを要す云々」と縷々二時間に渉れる有益なる講演ありて、暫時別室にて休憩の後、富士川ドクトルは「人體及び其保護(前回の續き)と題して先づ齒牙より說き起され胃、腸、肝、膵の構造より機能に說き及ぼし、その保護の方法をば、實例を擧げて詳細に說明し、何時もながら趣味ある講話にてありし、當日の傍聽者は無慮百五十餘名にして近頃稀れなる盛會なりしが四時半過ぐる

頃閉會せり

因に總裁宮妃殿下は最と御熱心に御聽聞あらせられたる御樣子なりしが、閉會後間もなく御歸邸遊ばされたり、當日出席の役員諸氏は左の如し

岡田德子　濱尾作子　松平芳子　田村孫代子
高橋幸子　小川幸子　長谷川仲子　鳩山春子
岸　澄子　羽田三樹子　三浦敬子の諸氏(出席順)

○鍋島會長歡迎會

新潟支會幷に當市在住の大日本女學會員聯合の上今回閑院宮殿下御臺臨の一行に加はれる會長鍋島侯爵夫人を招待して去四日午後四時より當市高等女學校內に於て歡迎會を開催せられたり、會場は同校の講堂を以て充てられ此日出席されし會員は兩會を通して無慮百餘名なりしが先づ當支會幹事中村しげ子兩會を代表して開會の辭を述べ、次て幹事澁川たま子は當支會を代表し、江部しげ子は女學會を代表して何れも歡迎の辭を朗讀せらる、軈て會長鍋島侯爵夫人は立ちて諸姉の熱誠なる行動によりて兩會今日の隆盛を來せしは深く欣喜する所にして特に婦人衛生會幷に慈善會の發達は講師及び顧問諸氏の盡力與りて力あるべく云々何れ歸京の上は當衛生會の總裁東伏見宮妃殿下、女學會の總裁伏見若宮妃殿下の御聽に達すべく兩殿下にも定めし御滿足の御事と恐察するに餘りあり尙今後も一層諸姉の奮勵を望む旨の告辭ありたり、夫れより婦人衛生會新潟支會副會長關やす子の閉會の辭ありし後、茶菓の饗應ありしが各自談笑和氣藹々の比ひ校庭に於て一同紀念の撮影をなして散會したるは同六時頃なりしが近來靜肅なる會にてありしと云ふ

山形支會

○六月例會

去月廿二日午後二時より女子師範學校內に例會を開き左の講演ありて傍聽者約七十餘名なりしが四時頃閉會せり、當日の講師及び演題は左の如し

一癩病の話　姉川醫學士
一脚氣に就て　穗田醫學士

新潟支會

○六月例會

去月十六日午後一時より新潟師範學校附屬小學校に於て當市婦人教育會と聯合して開會せり出席者約五十名講師及び演題は左の如し

一衞生と社會の秩序　醫學博士澤田敬義君

○地久節祝賀會

去る五月廿八日地久節の佳辰に當り新潟婦人教育會と新潟支會聯合の上右祝賀會を開きしに出席者約九十餘名高田せん子開會の辭を述べ次て蒲井良平氏の祝辭あり、式を終りて餘興に移り種々の催ふしありて會員一同歡を盡して同五時散會せし由

○高崎支會總會（去る四月四日）

高崎支會第五次總會に於て役員改選投票の結果は左の如し

支會長　星野きよ子
副會長　相川すか子

幹事（點數順同點は入會順）

齋藤れう子（庶務）　三橋ひろ子（庶務）
天利いし子（會計）　高草木かれ子（會計）
長谷川りて子（會計）　佐藤たれ子（庶務）

評議員

財津いく子　相川はま子　清水かれ子
本多美佐子　相澤小松子　土谷ひやく子
正木操子　熊谷操子　高山はる子
鈴木くら子　福田あい子　渡邊龜子

○本會入會者

○北海道、阿部恒子紹介
●北海道札幌郡苗穗村四　通常會員　三宅きよ子
●北海道札幌郡苗穗村三十　通常會員　富樫たづ子
●北海道札幌區北一條東七丁目　通常會員　內藤よし子

○牛込、小川孝子紹介
●芝區伊皿子町三十五　通常會員　島田濱子

○事務所申込
●日本橋區蠣殼町二丁目十四　通常會員　日本橋高等女學校

○事務所申込
滋賀縣甲賀郡水口山村清太郎方　通常會員　四方しげ子

○新潟縣支會入會者

○澁川幹事紹介
●新潟市　特別會員　桑原雖子
●新潟市旭町　通常會員　金子ともゑ子

○吉田さん子紹介
●　特別會員　中村ふぢ子

○廣橋たか子紹介
●新潟市仲大畑町五百二十四　特別會員　番場ちよの子

○高橋幹事紹介
●新潟市本町通五番町　通常會員　大塚いち子

○中村幹事紹介

●新潟市古町通七番町　終身會員　小出ちい子
●新潟市入船町五丁目　特別會員　伊藤くに子
●新潟市横一番堀　特別會員　鳥居みさほ子
●新潟市古町通七番町　通常會員　大西ひさ子
●新潟市上大川別道七番町　通常會員　齋藤まつ子
●新潟市上大川別道八番町　通常會員　齋藤まさ子
●新潟市下旭町　特別會員　小川けい子

○高崎支會入會者

●高崎市赤坂町　通常會員　高橋ちよ子
○長谷川りて子紹介
●高崎市堰代町三十　通常會員　高橋爲子
●高崎市新紺屋町　通常贊成員　井野守司

○山形支會入會者

○館幹事紹介
●　通常會員　伊藤ひさ子
○佐藤幹事紹介
●山形市新築　特別會員　新とく子
○伊藤たま子紹介
●山形市七日町　通常會員　湖わか子
●山形市下條町　通常會員　齋藤とり子

○轉居

●大分縣大分郡戸次村太田武彦方へ　太田ため子
●群馬縣邑樂郡御厨村字足次飯塚方へ　淡原せい子
●府下澁谷赤十字病院内へ　兒山すみ子
●府下北豐多摩郡巣鴨村一八二八へ　栗本膚勝
●麹町區三番町三十三櫛病院内へ　野見山たき子
●大阪市北區東野山町四二六根ノ宮へ　橋本良惠子
●韓國馬山浦浦馬山へ　弘生二非子
●橫濱市老松町野毛山病院内へ　松本育子
●府下荏原郡北品川字一本木三六一へ　進みち子
●赤坂區青山南町五丁目七十九へ　安村忠子
●肥前國佐賀市木村町二丁目福井竹一郎方へ　吉澤みは子
●小石川區竹早町一二四へ　菊地たつ子
●小石川區武島町十三鈴木方へ　秋敬子
●麻布區笄町一七一へ　大井上彼子
●茨城縣水戸市上市藤澤小路八　中根いれ子
●佐世保市福川町一三九へ　駒竹三登子

新刊寄贈書

村井弦齋著

一、增補註釋食道樂續篇（冬の卷）全壹册（菊判形）

人體を養ふものは食物と空氣なり、食物は口より入り、空氣は鼻より入る、一日食物無きも尙ほ忍ぶべし、瞬時も空氣を缺かば人忽ち死せん、鼻の重んずべきは口の重んずべきに異ならんや、鼻の諸病に關係あるは百餘年前に於て我邦の醫學が唱道せし所、然るに今や外國新來の說として我邦に傳はる新か舊か、往事は問ふを須ひす、只如今益々鼻の妙機靈能を闡明して人體の健康を保つの要あるを知る、是れ著者かはしかきにものせし一節なれど能く其の梗概を盡されたるを以て批評に代ゆ（發兌元東京報知社出版部、正價一册金八拾錢）

一、理想の母　菊判形全壹册

原著はミンニー・エス・デーヴイス氏にて本書の目次は（一）問題（二）慈母と愛兒（三）眞正の遺產（四）父と母等にし、木下祥眞氏がものされたる家庭の良書なり（發行所東京本鄉區駒込西片町十、內外出版協會、定價一册金貳拾五錢）

私立大日本婦人衛生會米澤支會規則

第一條　當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條　支會事務所は當時假に免許町一三六九番地猪股方に置く

第三條　當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條　毎月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き毎年五月總會をなし役員改撰庶務會計等の報告をなす

第五條　入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し已納の會費は返附せず

第六條　當支會の會費は左の三種として特別會員毎月金參拾錢通常會員甲毎月金拾五錢乙毎月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條　會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金とす

第八條　會員及員外篤志者より金品の寄附あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條　講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條　支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を着用する事

第十一條　特に支會則に揭げざるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九
米澤支會

私立大日本婦人衛生會山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在住者を以て組織す●第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名評議員若干名を置く會長副會長は公撰し幹事評議員は會長之を撰任す役員の任期は一ヶ年とす●第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(九月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす●第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし●第五條　本會々費は會計幹事に納むべし但し六ヶ月又は一ヶ年分新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし●第六條　服裝は精誠質素なるを要す上着及羽織は綿布を用ゆるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

事務所山形市旅篭町新築四通二百八十九、北島氏方

山形支會

私立大日本婦人衛生會宇都宮支會規則

第壹條　本支會ハ私立大日本婦人衛生會宇都宮支會ト稱ス●第貳條　本支會ニ會長一名副會長一名評議員拾五名幹事四名ヲ置ク會長副會長ハ公撰シ評議員幹事ハ會長之ヲ撰任ス各役員ノ任期ハ一ヶ年トス●第參條　毎月壹回(第一日曜日)講話會ヲ開キ毎年五月講話ノ外役員ノ改撰庶務會計ノ報告ヲナス●第四條　入會ハ宿所姓名ニ第五條ノ通リ會費ヲ添ヘ事務所ヘ申込ミ又ハ會員ニ紹介ヲ依賴スベシ本支會ヲ脫會又ハ本會ヲ退會セントスルトキハ其旨事務所ニ屆出ツベシ●第五條　本會々費ノ外別ニ支會々費ヲ要セズ會費ハ一時ニ六ヶ月又ハ十二月分、新タニ入會ノモノハ其月ヨリ六月又ハ十二月迄ノ分ヲ納ムベシ●第六條　本支會ハ別ニ支會々員ヲ置キ支會會費トシテ一ヶ月金五錢ヲ納ムルモノトス●第七條　講話會ニ出席ノ節ハ成ルベク家族又ハ知合ノ婦人ヲ誘引シ傍聽セシムベシ●第八條服裝ハ精誠質素ナルヲ要ス上着及ヒ羽織ハ綿布ヲ用フルヲ禁ズ●第九條　特ニ支會規則ニ揭ケザルモノハ本會ノ規則ヲ準用ス

事務所宇都宮市馬場町

明治三十四年二月三日創立

宇都宮支會

大日本婦人衛生會

新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり●第二條 當支會の會員は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員毎月金參拾錢通常會員全金貳拾錢支會員甲毎月金拾錢乙全金五錢●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし●第四條 會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯著して衛生慈善資金とす●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を設く會長は副會長總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす●第七條 支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし●第八條 毎年一月總會を開き支會の要務を舉行す●第九條 本會は毎年春期親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄附を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時物品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし●第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし●第十三條 特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治廿九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戶中村しげ子方

新潟支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





●本會徽章料左の如し

●通常會員章
第三號　メッキ製拾貳錢、送費六錢
●第二號　正銀製四拾錢、送費六錢

●終身及特別會員章
第一號　七拾錢（黑塗箱入送費九錢）
六拾錢（桐箱入送費六錢）

第二條　會員章は本會幷に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

●入會注意

●御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收者差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なりとも御納付相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京牛込築土八幡町郵便局）宛振出あるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

●會員御紹介下され候御方には其人數丈の本會雜誌進呈

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

發行所　東京市牛込區上宮比町八番地
私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行者　東京市下谷區竹町五番地
齋藤清之丞

印刷者　東京牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
飯田三千太郎

印刷所　東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十二番地
株式會社秀英舍第一工場

明治四十年七月十六日印刷
仝年七月二十日發行（毎月一回二十日發行）
婦人衛生雜誌第二百十二號